

令和6年度年報

(2024年度)



国立療養所多磨全生園

令和6年度国立療養所多磨全生園年報発刊に寄せて

国立療養所多磨全生園 園長 鶴飼 克明

年報の発刊にあたり、令和6年度の多磨全生園を振り返ってみたいと思います。

新体制となって2年目となる令和6年度は、前年度より重点的に取り組んできた人生サポート、感染対策の緩和および組織で行う改善活動（TQM）を一步前に進めるとともに、多磨全生園将来構想の策定、より安心安全な療養環境の構築も重点目標としました。

多磨全生園の将来構想は20年以上の長きにわたり議論を重ねてきましたが、具体案を示すことができずにおりました。入所者の皆さんが将来への不安なく安心して療養生活を送るためにも、これ以上先延ばしにはできないと考え、年度内の策定を目指しました。幸いに、令和7年3月には公表に漕ぎ着けることができ、入所者自治会、東村山市、厚生労働省ならびに外部有識者の皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。

安心安全な療養環境を目指し、ハード面では施設整備5カ年計画の確実な実施を掲げましたが、昨今の建設事情によって大いに難渋し、次年度に持ち越しせざるを得ませんでした。一方、ソフト面では防災管理規定やマニュアルの見直しを行い、防災訓練を実施することができました。また防犯対策として、パトロールカーによる園内巡邏がはじまりました。快くご対応いただいた東村山警察署には感謝の気持ちでいっぱいです。

前年度より重点的に取り組んできた人生サポートは、ライフサポート部会の創設、人生サポートニュースの定期発刊、「園むすび」の運用開始、入所者の願いを叶える事業、鬼太鼓座公演、115周年クリスマスイベントなど、充実した1年となりました。感染対策においては、「新型コロナ感染状況に応じた園内対応指針」を作成するなど、入所者一人ひとりの希望に寄り添った感染対策と制限緩和が始まりました。

ところで、11月には第36回ハンセン病コ・メディカル学術集会を主催しました。業務多忙の中、準備から当日の運営に関わったスタッフには感謝申し上げます。大いに苦勞しましたが、職員がOne teamになれた大変貴重な経験でした。

こうして振り返ってみると、確かに多磨全生園は一步前には進みました。しかしながら、まだまだ解決すべき課題が山積であることは否めません。私たちは更なる高みを目指し、組織で行う継続的な改善活動（TQM）をより一層推進すべし、と決意を新たにしています。

さて、この年報には各部署の活動報告、統計資料のほか、行事・園外からの受け入れ・研修報告などが記録されています。この小冊子を通し、多磨全生園の現状と目指す方向性をご確認いただき、今後とも当園運営にご理解、ご協力そしてご助言いただければ幸いです。

最後となりましたが、発刊に向けて準備をして頂いた各部門の方々に心より感謝申し上げます。

令和7年7月10日

施設理念

当園は、入所者一人ひとりが心の安らぎを得て療養できる環境を提供し、生きていることの充実感が満たせるように医療・生活の充実をはかります。

基本方針

- ◎ 入所者の目線にたった安心で信頼される医療を提供します。
- ◎ 入所者の権利（知る権利・自己決定権・プライバシー）を尊重します。
- ◎ 快適な生活環境の場を提供します。
- ◎ 職員の教育・研修に努めます。

患者（入所者）の権利

- ◎ 人格を尊重した医療を受ける権利
- ◎ 医療に関する十分な説明を受ける権利
- ◎ 個人情報保護の権利
- ◎ 診療情報の提供を受ける権利
- ◎ 検査や治療等の自己決定の権利

国立療養所多磨全生園の組織目標

【今期（令和6年度）の組織目標】

施設名：国立療養所多磨全生園

	内容	推進する上での課題
1	<p>期限（ 3月まで ）数値目標（ ）</p> <p>【国立療養所多磨全生園の将来のあり方の推進】 ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方（地域開放等）について入所者等と十分調整を行い、引き続き将来構想委員会において将来構想案の策定に向け提案していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 入所者の意見を尊重し、入所者と話し合いを十分に行った上で検討。 地方自治体、地域住民との調整。 必要に応じ、本省と調整。
2	<p>期限（ 3月まで ）数値目標（ ）</p> <p>【職員確保対策の推進】 入所者へのサービス提供体制の維持・向上を図るために必要となる職員を確保するとともに、離職防止策を推進する。特に看護師及び看護助手（介護員）について年度途中での離職が生じた場合は、速やかに募集活動を行い欠員解消を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施設全体で各部門の職員確保・離職防止策を実施。 積極的な募集活動実施、就職説明会の参加、学校、周辺医療施設等へ呼びかけ。 必要に応じ、本省と調整。
3	<p>期限（ 3月まで ）数値目標（ ）</p> <p>【職員の知識・技術の向上の推進】 入所者のハンセン病後遺症及び高齢化による認知症や手足等の障害に対する医療・看護・介護の充実、コンプライアンスの徹底、職員研修・勉強会の開催、施設内外研修等への積極的な参加等を図る。 （医療安全管理研修会年2回開催、感染対策研修会年2回、ハラスメント（セクハラ・パワハラ・マタハラ）研修会年1回開催し、参加率は100%を目標とする）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が参加できる研修計画の企画・立案による実施。 全職員（新規採用者含む）が、ハンセン病に対する正しい理解を深め、医療・看護・介護の充実に繋げるための研修内容の見直し。
4	<p>期限（ 3月まで ）数値目標（ ）</p> <p>【令和6年度予算の適正な執行、施設整備・支出・給与業務一元化の実施等】 施設・医療機器設備の年間整備計画に基づき、計画的かつ適正な予算執行を行う。 また、国立ハンセン病療養所に係る施設整備、経費の支出及び職員の給与の支給を適切に行うための方策の実施等を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施設全体における施設・設備整備の進捗状況を共有し、効率的・計画的なスケジュール調整を行い、早期執行に努める。 自治会及び本省との事前調整。 各施設の実態把握、委託業者等との調整及び試行等。
5	<p>期限（ 3月まで ）数値目標（ ）</p> <p>【職員の健康管理の改善、ワークライフバランスの推進】 定期健康診断後の健康管理医指導等を徹底し、年次休暇取得、超過勤務縮減を促進する職場環境作り、特定保健指導・メンタルヘルス・病気休暇取得者等への積極的な支援（相談、復帰等）を行う。 育児・介護に伴う制度活用が円滑に取得できる職場環境作りを行う。 （ドック・健康診断受診率100%、各職員付与年次休暇（繰越分除く）取得率80%、超過勤務時間数の対前年度減）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の定期健康診断結果の把握、指導体制の確立。 年次休暇取得促進、超過勤務縮減のための組織的点検・分析による各職場長へのフィードバック。
6	<p>期限（ 3月まで ）数値目標（ ）</p> <p>【看護・介護体制の充実】 入所者の看護・障害度に応じた体制整備と職員配置に再編成し、看護・介護サービス提供体制を強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 入所者の意見を傾聴し、入所者の理解を得ながら、個々の看護・障害度に応じた看護を行う体制及び職員配置を行う。 再編に向け、看護職員の協力と理解を得る。 必要に応じ、配置職員の確保等について本省と調整。
7	<p>期限（ 3月まで ）数値目標（ ）</p> <p>【入所者のライフサポート】 入所者のライフサポートのため、令和5年度より実施しているケアカンファレンスを全入所者に半年に一回実施する。 多職種協働による活動体制の確立により、入所者のライフサポートを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職員・入所者への協力依頼と事前周知方法。 聞き取り者選定、グループ編成。 既存データとの整合性、継続性の尊重。 事業の進捗管理

【職員の能力向上のための取り組み】

	内容
人材育成・組織活性化	<p>入所者のハンセン病後遺症及び高齢化による認知症や手足の障害増加にあわせた医療・看護・介護が実践できるよう、職員研修・勉強会を開催するとともに、施設内外研修への積極的な参加を促進する。(再掲)</p> <p>医療安全管理研修会年2回開催、感染対策研修会年2回開催、ハラスメント(セクハラ・パワハラ・マタハラ)研修会年1回開催し、参加率は100%を目標とする。(再掲)</p>
実態把握能力	<p>入所者へのサービス提供体制の向上に必要な職員の確保を行うために、各部門毎に職員の欠員理由を分析し、対応策を検討する。(再掲)</p> <p>施設・設備の整備計画に基づき、計画的かつ効率的に予算を執行する。(再掲)</p>
新政策企画・立案能力	<p>ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方(地域開放等:災害時協定含む)について、地域自治体及び入所者等と十分調整を行い、将来構想委員会において将来構想案の策定に向け提案していく。(再掲)</p> <p>国立ハンセン病療養所に係る施設整備、経費の支出及び職員の給与の支給を適切に行うための方策の実施等を行う。(再掲)</p>
政策検証能力	<p>ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方(地域開放等:災害時協定含む)について、地域自治体及び入所者等と十分調整を行い、引き続き将来構想委員会において将来構想案の策定に向け提案していく。(再掲)</p>
コミュニケーション能力	<p>管理診療会議等における伝達事項(職員周知の必要事項)などを、誰もが理解しやすい簡潔かつ明瞭な表現となっているか自己点検する。また、職場長は平日頃の業務を通じて、部下に対し丁寧に、かつ、わかりやすく直接説明するように心がけ、また、確実に全職員に伝わるよう園内LAN、各種ミーティング、資料回覧等を活用し、迅速かつ正確に情報共有を行う。</p> <p>また、各種会議においては心理的安全性の確保の観点から意見を言いやすい環境を醸成する。</p>
コスト意識	<p>園内配布物等の原則両面白黒コピー、起案用紙の白黒印刷等の取組を継続し、常に全職員が節約に心がける。後発薬品の使用割合については85%を目標として、薬事委員会等で周知し、実現に向け努力する。</p>
業務改善能力	<p>ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方(地域開放等:災害時協定含む)について、地域自治体及び入所者等と十分調整を行い、将来構想委員会において将来構想案の策定に向け提案していく。(再掲)</p> <p>職員の人材育成に向けた研修会を年数回定期的に開催することや、外部研修の積極的受講など個人毎のスキルアップを図る。</p>
リスク対応能力	<p>全職員に法令遵守の徹底を働きかけ、問題発生を未然に防止する。仮に、問題が発生した場合は、職員は速やかに職場長や担当部署へ報告・相談することを徹底する。また、園内で対応を検討し処理するうえで、内容によって本省に迅速に報告し、対応を協議する。</p> <p>機会あるごとに制度の周知、公務員倫理研修会の実施及び事務部門における法令遵守自己点検を行い、取り組みを強化する。</p>

目 次

- ・年報発刊によせて（園長 鷓飼 克明）
- ・国立療養所多磨全生園組織図
- ・施設理念・基本方針・患者（入所者）の権利
- ・国立療養所多磨全生園の組織目標

I	活動報告	1
	1. 諸会議開催状況	3
	2. 診療部門	4
	3. 看護学校	39
	4. 新型コロナウイルス感染症への対応	41
II	行事・園外からの受入、研修等報告	43
	1. 園主要行事	45
	2. 主要な視察状況	46
	3. 看護学生実習・施設見学・研修等施設利用許可状況	47
	4. ボランティア受入状況等	52
	5. 研究活動、研修参加、倫理審査委員会状況	53
	6. 規程の改訂状況	64
III	統計資料	67
	1. 職員定数・現員、永年勤続授賞者等	69
	2. 経理関係	73
	3. 入所者関係	74
	4. 治療棟診療科受診者数	80
	5. 診療統計関係	81
	6. 医療事故分析報告	89
	7. 看護学校関係	91

I 活動報告

1. 諸会議開催状況（令和6年度）

会議名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理診療会議	4月25日	5月23日	6月27日	7月25日		9月25日	10月24日	11月28日	12月24日	1月23日	2月26日	3月27日
園内感染対策委員会	4月25日	5月23日	6月27日	7月25日	8月26日	9月25日	10月24日	11月28日	12月24日	1月23日	2月26日	3月27日
幹部会議	4月2日	5月14日	6月11日	7月9日		9月10日	10月8日	11月12日	12月10日	1月14日	2月12日	3月11日
	4月9日	5月28日	6月25日	7月23日		9月24日	10月22日	11月26日	12月23日	1月28日	2月25日	3月25日
	4月23日											
医療安全管理委員会	4月18日	5月16日	6月20日	7月18日	8月15日	9月19日	10月21日	11月21日	12月19日	1月16日	2月20日	3月13日
薬剤委員会		5月27日		7月22日		9月24日		11月25日		1月27日		3月24日
褥瘡対策委員会	4月15日	5月13日	6月10日	7月8日		9月9日	10月21日	11月11日	12月9日	1月20日	2月17日	3月10日
NST委員会	4月4日	5月2日	6月6日	7月4日		9月5日	10月10日	11月7日	12月5日	1月9日	2月6日	3月6日
献立委員会	4月23日	5月28日	6月25日	7月23日		9月24日	10月22日	11月26日	12月24日	1月27日	2月25日	3月25日
栄養管理委員会	4月23日			7月23日			10月22日			1月27日		
公共調達委員会	4月22日			7月17日			10月10日			1月8日		
臨床検査委員会												3月6日
健康安全管理委員会							10月1日					
輸血療法委員会						9月24日						3月24日
保育所委員会	4月18日			7月18日		9月19日		11月21日		1月16日		3月13日
診療情報等管理委員会		5月30日					10月29日					
中央材料室運営委員会												
医療倫理委員会												
倫理審査委員会												
看護学校運営会議		5月23日				9月17日		11月12日		1月31日	2月6日	3月11日
病理検体の管理等に関する委員会				7月23日								
ハラスメント調査委員会												3月24日
将来構想委員会												3月11日
施設懇談会	4月11日	5月15日	6月13日	7月11日		9月12日	10月10日	11月14日	12月12日	1月15日	2月13日	3月19日

2. 診療部門

内 科

内科医長 汐崎 祐

1 診療体制

(1) 外来の状況

前年度と同様の体制（内科外来を平日に毎日1診、リウマチ科外来を隔月に1回）で診療を行った。

(2) 病棟の状況

1病棟およびやすらぎ病棟の体制は前年度と同様（1病棟で急性期疾患、やすらぎ病棟で慢性期疾患）であった。1病棟への年度内の入院件数は50件（他科との併診を含む）で、近隣医療機関との連携により侵襲的治療を行った症例は、大腸癌、腰椎すべり症、大腿骨骨幹部骨折、胆嚢軸捻転があった。新型コロナウイルス感染症で3名が入室したが、死亡例なし。令和6年度は園内でノロウイルスによる胃腸炎の発生があり、8名が入院したがいずれも症状は軽微であった。

2 診療スタッフ

特命副園長	岡 慎一	内科医長	村上 龍司（年度末で退官）
内科医長	後藤 義孝	内科医長	汐崎 祐
内科医師	加藤 知子	内科医師	藍沢 隆雄（令和7年2月入職）
内科医師	湯浅 園香	非常勤医師	大滝 純司
非常勤医師	小田 智三	非常勤医師	中嶋 京一

3 診療内容

前年度と同様に慢性疾患を主な対象として診療を行っている。本年度の入所者検診で76名の内科検診を実施した。金曜日に感染症ラウンドおよびコンサルテーションが実施されている。

4 1年間の経過と今後の目標

全体として大きな診療体制の変化は無かった。学術活動は第97回日本ハンセン病学会総会・学術大会（邑久光明園）で1件の演題発表を行っており、継続的に実施していきたい。また、年度末に電子カルテ導入についての話し合いが行われており、園全体として電子カルテ導入に向けて動き出すこととなった。スムーズな導入が出来るように内科としても検討を継続していく。

精神科

精神科医長 大森 まゆ

1. 診療体制

週2日（水、木）を外来日としている。診療は治療棟で行っているが、入所者の状況に応じて、随時往診も行っている。入院中の入所者については、他の診療科と連携して病棟内で診療を行っている。また、非入所者の受診にも応需している。

2. 診療スタッフ

精神科医長 大森 まゆ 精神科医師 伊豆原 宗人

3. 診療内容

不眠、不安、抑うつなどの一般的な精神不調と、幻覚、妄想などの精神病性障害、加齢・脳器質性の変化に伴う認知症、認知症に伴う行動・心理的症状（BPSD）などを診療対象としている。ほとんどの入所者が高齢で、身体疾患の併存やフレイルがある、複数の薬剤服用中であるなど、向精神薬による鎮静や転倒その他の有害事象の潜在的リスクがあることから、薬物療法は最小限とし、安全や生活の質に着目した心理社会的な介入を心がけている。

認知症の二次予防（早期発見と早期の治療・介入）を目的として、希望する入所者に対して、物忘れ検診（頭部CT検査と神経心理検査）を実施している。今年度の受検者は18名であり、うち数名は、継続的な治療につながった。

また、コンサルテーション・リエゾン、メンタルヘルスの観点から、対人関係や環境に対する適応上の問題があるケースについて、スタッフの相談に応じる、ケアカンファランスに参加するなどし、必要に応じて、入所者の同意を得て診療につなげている。

認知症を有する入所者が療養するやすらぎ病棟においては、隔離・身体的拘束ゼロを達成し、維持している。今後も、認知症のある入所者の尊厳やQOL、身体的・心理的安全に配慮した治療を行っていく。

令和6年2月より、睡眠時無呼吸症候群の簡易検査（簡易PSG検査）を開始した。自らの希望または他の診療科からの勧めで検査を希望する入所者について、睡眠障害を専門とする伊豆原医師が検査、解析、検査結果説明を行っている。

4. その他

スタッフを対象に、以下の講義を行った。認知症を持つ方への看護・介護について（2024年6月25日 大森）、認知症ケアに対する疑問について（2024年9月9日 伊豆原）、ワクチンと睡眠の関係について（2024年11月8日 伊豆原）

一般寮の入所者を対象にフレイル予防のための講話を行った（2025年2月19日 大森）。

外 科

広報委員 加藤 知子

令和6年度の外科外来受診者数は1年間233人（延べ人数）でした。

主な診療内容はハンセン病後遺症による感覚障害からの潰瘍、変形による胼胝などの手足の創や熱傷による創の治療、（デブリードメントや縫合）、抜爪や肛門疾患の診断・治療です。令和7年3月末の臼井医師の退職に伴い、爪ケア外来は令和6年7月1日より皮膚科に移行し、令和7年3月末で完全に皮膚科外来に移行しました。

整形外科

整形外科医師 岩見 卓朗

令和6年度 整形外科外来の概要

令和6年度の整形外科外来では、例年通り一般診療と健康管理を中心に診療を行っています。一般診療は、整形外科全般に対応するとともに、脊椎、関節、腫瘍などの専門領域に応じて、各医師が専門性を生かしながら診療にあたっています。必要に応じて、専門領域間での連携も図っています。

外来受診理由と主な疾患

外来を受診される主な理由は、①非外傷性疾患、②外傷の大きく2つに分けられます。

① 非外傷性疾患

主訴として多いのは、頸部痛、腰痛、膝痛、肩関節痛などで、原因の多くは加齢に伴う変性疾患（例：変形性頸椎症、腰椎症、膝関節症、肩関節症）です。

また、長期の末梢神経障害に起因する関節変形や、皮膚・軟部組織感染、潰瘍の繰り返しによる変形が見られる患者さんも多くおられます。

治療は鎮痛薬の内服・外用を基本とし、疼痛が強い場合は局所への注射を併用しています。保存的治療で痛みのコントロールが難しい場合は、近隣の医療機関と連携した手術療法も検討します。皮膚や軟部組織の問題がある場合は、皮膚科と連携して診療を行っています。

② 外傷

外傷の中では骨折が最多で、特に脊椎圧迫骨折や大腿骨近位部骨折は入院・手術を要し、ADLの大幅な低下につながる可能性があります。

脊椎圧迫骨折では、さらなる椎体の圧壊や隣接椎体の骨折を防ぐため、長期の臥床やコルセット装着が必要になります。大腿骨近位部骨折は基本的に手術が必要ですが、高齢化に伴い、心肺機能の低下や合併症により手術が困難なケースも増えています。その結果、疼痛管理や歩行機能の回復が難しくなるケースも見られます。

リハビリテーションの重要性

いずれの場合も、高齢患者のADL低下をいかに防ぐかが重要な課題です。安静や疼痛による活動性の低下を防ぐためにも、適切な鎮痛とともに、体力や筋力の維持、廃用の予防が求められます。特に入院患者さんに対しては早期の退院、元の生活への復帰を目指して治療にあたっております。

整形外科の外来・入院治療において、リハビリテーションは重要な役割を担っており、リハビリテーション科医師、作業療法士（OT）、理学療法士（PT）、看護師、装具士の協力を得ながら、多くの患者さんへの介入が行われています。今後も、チーム医療としての連携をより一層強化していきたいと考えています。

骨折予防と骨粗鬆症対策

特に骨折予防の観点からは、骨粗鬆症への対応が喫緊の課題です。骨がもろくなることで、手術が困難となり、強固な固定ができず、除痛にも苦慮するようなケースが見られます。そのような事態を防ぐためにも、骨折そのものを予防することが重要です。近年では骨粗鬆症に対する様々な治療薬が開発されてきており、患者さんの状態に合わせて積極的に導入しております。

また当科では、年に1～2回、骨密度測定を実施しており、定期通院されている患者さんには積極的にご案内しています。今後も、骨粗鬆症の早期発見・治療、骨折リスクの評価、そして予防の重要性についての啓発活動を継続していきます。

専門医皮膚科

皮膚科医師 木村 真衣

令和6年度の皮膚科外来で多く見られた疾患は、昨年度と同様、胼胝、胼胝下潰瘍、外傷、熱傷、白癬、カンジダ性指間びらん症、微小な傷からの二次感染・蜂窩織炎などです。胼胝や潰瘍の原因としては、手足の変形や、それに伴い靴や装具が患部を圧迫するなどの外的要因も多く、多職種と連携し適宜装具の調整などを行い治療をしております。免疫不全患者に生じることのある皮膚ノカルジア症も1例みられました。皮膚悪性腫瘍も数例認め、患者が高齢のため、できるだけ患者に苦痛の少ない治療選択を心がけております。

ハンセン病回復者は知覚鈍麻のため、外傷・熱傷を繰り返す、2次感染を合併するなど様々なリスクがあるなかで生活をしています。知覚鈍麻のため患者本人が症状の変化に気づくことができないケースが多く、皮膚科医含めスタッフと連携し症状の早期発見に努めております。

令和6年もハンセン病国内新規患者は数名おり、当科では主治医の先生からの依頼があれば、可能な限り当該医療機関に出張し、診察、スミア検査、組織の特殊染色を施行し、PCR検査をハンセン病研究センターに依頼します。令和6年も石川県立中央病院など、数名の診療依頼がありました。今後も一般医療機関への診療協力を継続します。

下記のように学術活動も行うことができ、ハンセン病を含む皮膚疾患の理解を深めながら今後も診療にあたって参ります。

- ① 木村真衣, 関根万里, 石井則久, 山崎正視, 藤沼千尋, 岩澤うつぎ, 水川良子, 大山学: 多磨全生園での2021～2023年のハンセン病新規患者について. 第88回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 宮城, 令和6年9月15日
- ② 木村真衣, 石井則久: ハンセン病の検査と末梢神経検査. 皮膚病診療: 46,51-53,2024

眼 科

広報委員 加藤 知子

令和6年度の眼科外来は月曜と第2、第4週水曜日の午前は杏林大学病院より慶野教授、火曜日の午後は埼玉病院の南雲医師、第1、3、5週の木曜日は杏林大学病院の赤羽医師が担当していました。

1年間の外来受診者数（延べ人数）は784人で、疾患は主にハンセン病後遺症による兔眼からの角膜炎や帯状角膜変性症や加齢やぶどう膜炎由来の白内障です。

緊急委託受診は結膜下出血・結膜下浮腫による1件のみで秋津眼科を受診されました。

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科医長 中井 淳仁

平成20年度以降医長1名のみで診療を行っている。専門医資格更新に必要な学会出席のため、年に数回休診とさせていただいている。

入所者数の減少に伴い、1日に当科で診療する患者数は12名前後のことが多くなり、ゆるやかな減少傾向が続いている。

診療の内容としては、かなりの部分がハンセン病の後遺症である萎縮性鼻炎に関係した鼻腔の清掃で、残りは、一般の高齢者に見られる難聴や、アレルギー性鼻炎・血管運動性鼻炎などへの対応である。また、認知症などの患者を対象に定期的な耳垢除去を行っている。

以前より難聴の入所者には補聴器をお勧めしているが、今年度の購入者は1名であった。

入所者検診を、今年度は63名に対して行った。

年2回の職員検診では、約40名を対象に聴力検査を行っている。

付属看護学校の学生の検診を年1回約20名に行っている。

引き続き各不自由者棟等での誤嚥・窒息対策の講習も行っている。

手術その他の専門的医療が必要な症例や専門家の診断を仰ぎたい症例については、適宜疾患分野に応じた専門家のいる医療機関へ委託診療を行うこととしているが、本年度も対象例がなかった。

リハビリテーション科

リハビリテーション科医師 川畑 有紗

2024年度も園内居住者の皆様の身体状況や生活状況に合わせた、リハビリテーション治療の処方・生活指導・義肢装具の調整・家屋調査による生活環境整備を中心に業務を実施いたしました。ハンセン病にとまなう末しょう神経障害による感覚障害や運動麻痺・関節可動域制限に加えて、重複する内科的疾患や整形外科的疾患による身体機能の変化も総合的に評価し、理学療法、作業療法、言語聴覚療法を組み合わせたりハビリテーション治療を行いました。

徐々に園内居住者の方々の高齢化が進んでおり、身体機能低下を心配されるお声をいただく頻度が増えてきていると感じております。そのため外来での定期検診および定期評価にて歩行能力やバランス能力を評価するのみならず、各療法士と医師がリハビリテーション治療の進捗状況を確認する場を定期的に設け、生活環境でのお困りごとが無いかを看護師・介護員とも密に連携し確認させていただきました。必要な場合には家屋調査に伺い、安全かつ快適な住居環境をご提供できるように努めて参りました。また病棟に入室された際には、できる限り円滑にもとの生活へ復帰できるよう、病棟・センター・一般支援室のスタッフと情報共有を図って参りました。筋力・体力の衰えや、飲み込みづらさ、普段の生活でご不安に思われることがございましたら、いつでもお気軽にご相談ください。

食事に関しても、飲み込み機能(嚥下機能)を医師や言語聴覚士が診察させていただきました。栄養は毎日を元気に過ごす為には欠かせないものです。普段の食事が進まない場合も、食事形態の変更や効率的かつ安全に栄養を補充できる補助食品を併用することで、栄養状態を良くできる場合も多くあります。気になることがあれば、いつでもご相談ください。

また当科ではいきいきリハという取り組みを行いました。いきいきリハとは、身体機能と認知機能を同時に鍛えることで、「いつまでも若々しく元気に過ごす」ことを目標とするリハビリプログラムです。2024年度は1センター・3西センター・一般支援室で月1回ずつ実施し、数多くの方にご参加いただきました。参加をご希望される方は、周りのスタッフへお声がけいただけますようお願い申し上げます。

今後とも園内居住者の皆様に少しでも楽しみながらリハビリに取り組んでいただき、皆様の生活がより良いものになるよう努めて参ります。引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。

理学療法部門 (PT)

定員：定員枠 6 名

理学療法士長 1 名（鈴木）理学療法士 5 名（高田、於久、上原、佐々木、※時任）

2024. 4 月に人事異動にて PT 崎野に代わり PT 上原が科員に加わった。

PT 時任（※再任用 31 時間上限の勤務形態）PT 佐々木（育児休暇取得 2 / 10 ~ 3 / 14、病休取得 3 / 18 ~ 3 / 21）その他 PT 科員において諸制度を利用した休暇取得者はいなかった。

【理学療法部門における実績傾向】

① 月報集計より

理学療法部門の実施件数の月平均は 789 件、昨年度と横ばいの実績（昨年度は前年度より 10% 減）であった。理学療法部門への処方数は維持されており、引き続き全入所者数の 80% をフォローしている。ベッドサイド介入の平均件数は 112 件で前年度より平均で 30 件の増であった。理学療法の手技、内容については、前年度と同様に徒手療法の割合が高く、治療機器を使用する運動療法の割合は少なく、マンツーマンでのリハビリテーションになっている。物理療法（主としてホットパック）を併用する患者割合も昨年度同等の全処方数の 20% 程度を維持した。

② カンファレンス件数

付帯業務として、自身が担当する患者のケアカンファレンス（平均 30 分程度）に参加した。年度合計件数 84 件、月平均 7 件であった。同一患者に対して複数回カンファレンスが実施される事もあった。

③ 家屋評価・調整件数

リハビリテーション科医師の立ち合いの下実施されるものや、PT のみで実施するものを含めて、PT と PO が主として参加する家屋評価・調整は令和 5 年度、33 件 / 年、月平均 3 件で減少傾向にあったが、令和 6 年度は 52 件 / 年、月平均 4 件と増加した。

④ 所属別 理学療法 平均実施者件数 3 年度分（令和 4 年度 / 5 年度 / 6 年度）

1 病棟（154 件 / 79 件 / 130 件）、やすらぎ病棟（212 件 / 160 件 / 161 件）、第 1 センター（440 件 / 437 件 / 425 件）、第 3 西センター（376 件 / 339 件 / 338 件）、一般舎（202 件 / 175 件 / 150 件）、園外社会復帰者（11 件 / 12 件 / 7 件）、第二共済（0 件 / 0 件 / 0 件）

【リハビリテーション科 定期評価（PT 部門）】

例年同様に 11 月から依頼（定期評価処方）を受け実施した。計 53 件に Functional Reach と Time Up To Go Test の 2 つの評価項目に対して理学療法部門で検査測定をおこなった。今年度は開眼片脚立位と 5 回立ち上がりテスト（FTSS）の 2 項目についてはリハビリテーション科の医師が診察時に検査測定をおこなった。合計 53 件の定期評価をおこなった。

【会議分担・臨床以外の付帯業務】

管理・診療会議 1 / 月（PT 士長）、園内感染対策委員会 1 回 / 月（PT 士長）、医療（二）部会 1

回／2W (PT士長)、医療安全推進部会 1回／月 (PT於久)、褥瘡対策委員会 1回／月 (PT佐々木)、*認知症 ケアチーム → 認知症 フレイル ケアチーム に名称変更 (10月管理診療会議にて報告あり) 1回／月 (OT小西)、*頭のいきいきりハチーム (OT小西、山田)、NST委員会 1回／月 (ST柴山)、ライフサポート部会 1回／4M (PO後藤) 医療機器整備委員会 1～2回／年 (PT士長)、防災委員会：適宜開催 (PT士長) 園内情報システム委員会：適宜開催 (PO菅野) 電子カルテ導入準備部会：適宜開催 (PT士長または士長指名者)

【勉強会等講師依頼への対応 (理学療法部門)】

4月：新入職者オリエンテーション「リハ科の紹介」(今年度資料提供のみ)

9月：やすらぎ病棟へ配属された新人看護師1名への症例を通じた個別指導

「トランスファーテクニックの伝達」(PT高田、PT上原)

(文責：理学療法士長 鈴木 広美)

作業療法部門 (OT)

定員：定員枠2名 (小西、山田)

退職に伴う約1か月半(年次休暇取得)により2024.2月より作業療法士1名欠員状態であったが、今年度1名が採用(異動者)となり定員2名で業務を行った。

ハンセン病後遺症や加齢、長期にわたる代償的な生活動作の習慣化等が起因と思われる頸部や肩周辺部の慢性的疼痛の増悪、また、昨年度から引き続き全国的な新型コロナの感染対策による行動制限から、活動性や認知機能、ADL、IADL能力低下につながった可能性がある入所者の心身機能の維持改善を目的に介入を進めた。終末期に対する介入はベッドサイドにてリラクゼーションや関節可動域の維持、気分転換を目的に介入した。

集団棒体操はリハビリテーション医師から処方された、やすらぎ病棟2名に対しリハビリ室にて実施していた。2名のうち体調不良や不穏により欠席などにより集団で実施できない回数も増えてきている状況。

精神科処方による神経心理検査(認知症検査)は昨年に引き続き実施した。

認知症予防対策の一環として昨年度に引き続き、認知症対策部会のひとつ「いきいきりハチーム」に参加。併せて「認知症ケア会議」に参加した。

「いきいきりハ」に関しては昨年度に引き続いて、一般支援室ホールにて月2回(30分/1回)実施していたが、感染症対策と併せて入所者の高齢化・介助量の増加に伴い、一般支援室ホールでは不適切との判断あり。適切な難易度設定や環境設定を試行する目的でプレ実施(4回)を行った。プレを経て7月以降正式に月3回へ変更となった。第一センターホール、第三センターホール、一般支援室ホールそれぞれの場所で各1回ずつ、計3回/月の実施とした。併せて、実施内容についても「コグニサイズ」では難しすぎて入所者が参加しにくいという意見があったことから、レクリ

エーション的な内容を中心としたものに変更した。

2024年度の実績として31回企画、28回開催（3回中止）した。

全体の平均参加人数は2.3名/回、118名/年間計（1Cは6.5名/回、3Cは2.25名/回、一般寮は0.8名/回）。内容は年度当初は主に運動と認知課題を組み合わせたプログラムである「コグニサイズ」を実施した。プレ実施（4回）を経て、7月以降はレクリエーション的な内容を中心に実施した。

成果として、参加者の体の健康を促すと同時に、脳の活動を活発にする他、参加するため外出する機会が増えたこと、参加者間の交流がみられるようになったことがあげられる。

課題としては、一般寮の入所者の参加が極端に少ない（一般寮は0.8名/回）ことが挙げられる。入所者の外出機会を増やし交流を促すことができるよう内容を考え取り組む必要がある。今年度はいきいきリハを3回/月としたことで、年間の実施回数が増加している。

今後も身体機能に加え認知機能低下による生活困難者の増加が予想されるため、予防を含めた作業療法的介入が重要と考える。

実施件数の月平均263件

新患件数の月平均1.8件

OT介入全患者総数の月平均282件

ベッドサイド介入件数586件

家屋評価1件

精神科処方による神経心理検査（認知症検査）15件

（文責：作業療法士 山田 元）

言語聴覚療法部門（ST）

定員：言語聴覚士1名

入所者に対して、摂食・嚥下障害、高次脳機能障害、認知機能障害、全般性精神機能障害に介入した。

言語聴覚療法実施件数及び単位数は統計資料の通りである。実施件数は昨年度より平均9.7件/月増加した。原因として考えられるのは、昨年度まではCOVID-19等の感染症対策による活動制限のため、入所者がリハビリを休まざるを得ない機会も多くあったが、今年度はその制限が緩和された影響ではないかと考えられる。ただし、患者数そのものが大きく増加したわけではなく、昨年度比増加のため、一時的な可能性も大きい。今年度も、入所者の高齢化に伴い、摂食・嚥下障害や認知症の対象者が増加傾向にあり、その重症度も上がってきている。そしてそれに伴い、居室またはベッドサイドでのリハビリや、食事に関する相談も増加傾向にある。特に認知症に関しては重症度が高い方が増えており、多くの場合はスムーズな介入が難しく、その結果リハビリの介入に苦慮するケースもある。また、認知症による嚥下障害も増加傾向にある。いずれの場合でも、重症化する前段階での予防的リハビリでの介入が望ましい。今後もこれらの傾向は続いていくと考えられる。

その他、嚥下機能の定期検診をリハビリテーション科医師の指示の下行った。主に年度後半に21件実施することができた。また、園全体で多職種カンファレンスの取り組みが増えたことに伴い、ST部門での参加件数が増えた。リハビリテーション科全体でも関連する各部門で参加しているが、STの参加は14件だった。それ以外には本年も継続して、精神科依頼の認知症検査を作業療法部門と協力して実施した。さらに、もともと参加していたNST委員会で、NSTの対象患者（もしくは候補者）の摂食場面を多職種で観察するNSTラウンドも実施した。

- ・〈園内講義〉（嚥下に関する勉強会） 1件
- ・〈多職種カンファレンス〉 14件
- ・嚥下機能定期検診 21件

（文責：言語聴覚士 柴山 聡美）

義肢装具部門（PO）

定員枠：義肢装具士2名にて義肢装具製作・適合業務を実施

ハンセン病後遺症患者に対し義肢装具の製作・適合・修理のほか、日常生活活動援助のための自助具製作や入所者の家屋改修なども行っている。装具は、後遺症による難治性潰瘍に対する治療の一環として製作することが多く、装具の不適合は潰瘍の悪化に繋がるため、他科と積極的に協力しながら調整や除圧方法の提案、経過観察などを細やかに行った。義肢装具処方を受け対応した実施件数は義肢装具実施件数表の合計の値であるが、その他に微調整や修理を多数行っているため、「調整等」として件数を計上している。患者数の減少に伴い件数は減少傾向であるが、患者の超高齢化による身体機能低下に伴った義肢装具・自助具の細かな調整や、居室での転倒リスク増加に対する居室内の保護など様々な要望に可能な限り対応した。

その他の活動として他科への協力を行った。

〈園内協力と講義〉

- ・看護部への講義資料「Foot Wearに関して」を作成・提供
（令和6年11月13日） 後藤 直生
- ・看護部へ処置研修用機材の製作
後藤 直生
- ・看護学校の在宅看護論実習において、「義肢装具について」
（令和6年8月29日－30日） 後藤 直生、菅野 太洋
- ・東日本矯正医療センター准看護師養成校の実習において、「義肢装具について」
（令和6年10月17日） 後藤 直生、菅野 太洋

（文責：義肢装具士 菅野 太洋）

診療放射線科

診療放射線技師長 佐藤 敬

令和6年度、放射線科は再任用職員1名の退官に伴い定数2名の業務体制であった。

放射線業務は入所者検診および通常診療を行っているが、依頼内容としては従来の基礎疾患関連の検査に加え、転倒等に伴う検査が増加傾向であった。撮影件数は過去5年分の推移から年々減少傾向を示し、5年の間で総件数は約3割の減少となっている。これは入所者の減少が起因しており、今後も同様な傾向を示すことが予想される。検査件数が減少している一方、入所者の高齢化に伴い一検査に対する介助の度合いは大きくなっている。撮影時のインシデント防止として入所者へは可能な限り2名で対応し転倒防止に努めるよう心掛け業務を行っている。また検査時の不安が生じないように、声かけや検査説明、専用補助椅子等を用いたりして入所者に寄り添う形での医療を提供するよう努めている。

6年度の業務では新棟建築計画に伴う準備として、装置の移設関連、建築物の放射線防護（遮蔽計算）、高額医療機器整備関連について計画を進めた。しかし新棟建築計画に関して、昨今の事情（物価高騰、労働者不足等）で開始時期や完成時期に変動が生じると予測される。当科としては、大型医療機器の移設に伴う経費や更新時期を考慮し、最適な状況での計画案を画策し移設に備えることが現段階での対応である。現有装置の課題としてはCT装置や一般撮影装置が導入から10年経過することもあり日常および定期保守点検の実施で検査に支障を来さない様、機器管理にも努め環境を維持していくことが必須とされる。また新棟関連では電子カルテ化も計画されており画像系のインフラ整備も含め、園内システム構築の一環として計画準備に取り組んでいきたい。

次年度も放射線科の理念として入所者を第一に考慮し、検査手技や設備環境を整え負担軽減や安心度を向上させ入所者に寄り添った医療を提供する。それと並行し、ライフワーク活動への参加・協力を継続して行っていくことが責務である。

歯 科

歯科医長 石崎 勤

本年度の歯科は普遍的で安全な診療の継続と口腔衛生管理の充実を目標としてきました。それに伴い治療や口腔機能への影響などに客観的評価を加えることを試みてきました。

本年度の年間外来患者数は、2154名と昨年度とほぼ同等ですが、予測どおり入所者の減少および高齢化によりその内容には徐々に変化をきたしております。現在の口腔機能維持と口腔衛生管理の充実を図ってきましたが、口腔衛生管理の比率の増加です。専門的口腔清掃処置として外来処置の約60%を占めるようになり歯科衛生士による機械歯面清掃やう蝕対策としてのフッ化物歯面塗布、粘膜萎縮や口腔乾燥に対する保湿剤の使用など口腔ケアの充実が示されていると考えられます。入所者の高齢化と身体的状況の変化に伴い早期の咬合・咀嚼回復の目標から、実態に合わせた計画的変化とも言えます。また、コロナ禍よりの脱却に伴い、専門的口腔清掃処置として全身状態に合わせ歯科衛生士の居住区訪問での処置も継続しております。しかし、心理的抵抗感、全身状態により必要とされる入所者すべてを網羅するまでは至っておりません。入所者様は年々高齢化・身体的状況により、ますます居住区での口腔ケアが重要となってきます。口腔ケアは日常的口腔ケアと専門的口腔ケアに分かれています。今後情報共有の手段・他職種への知識、技術の伝達などを充実させ、日常的と専門的口腔ケアを園全体へ定着させていきたいと思っております。

歯科の診療スタッフは歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士で構成されております。しかし、非常勤歯科医師・再任用歯科技工士を含めて診療維持している状況で、今後構成員の減少が予定されています。今後の歯科のあり方を考慮しながら、診療の長期計画を考える時期になってきたといえます。

オーラルフレイル（虚弱）は全身的なフレイルに先行して発現するとされています。そこでオーラルフレイルのみならず重複障害に対しては、変化が出る前または早期から将来予想を含めた歯科アプローチにより食事・会話・嚥下等の問題予防に繋がると一般的に考えられております。また、それらの早期からの機能維持が全身的フレイルの予防につながります。当園の入所者の状態を考慮すると、時間的余裕は少ないと感じております。食事を楽しむことや会話をすることが、人たる所以の大きな要素で有り歯科はその一端を担う事を心に留めおき今後とも入所者様のQOLの維持・向上につながるよう診療にあたっていきます。

薬 剤 科

薬剤科長 伊藤 博

薬剤科では、入所者の方々が安心して薬物治療を受けられるように他部門と協力し連携を図っております。令和6年度は、薬剤師3名、非常勤薬剤師1名と薬剤助手1名で業務を拡大しながら薬剤科業務の質の向上に取り組みました。

令和6年3月に小林製薬が製造した「紅麹」を原料とするサプリメントによる健康被害が広がりました。腎障害を中心とする健康被害があり100名以上が入院し死亡例も発生したことがニュースで報じられました。薬剤科では、令和6年4月より入所者に健康被害が及ばないように窓口での聞き取りを行い、注意喚起のリーフレットを配布しました。

令和6年5月より薬剤科窓口での服薬指導を開始し、11月からは1病棟に入院された入所者に対しても薬剤管理指導を開始しました。服薬指導では、薬物療法の不安や心配が軽減される指導を心がけ、服薬アドヒアランスの向上に努めています。

医薬品管理では、安全かつ適正に購入、供給、在庫管理、配置薬管理を行っています。経済面では後発医薬品の推進を継続的に実施し、令和7年2月の時点で後発医薬品数量割合98.6%、金額割合97.6%に達し厚生労働省の掲げる水準を大きく上回りました。更に後発医薬品への変更推進と在庫管理を適正に行うことで医薬品購入費を大きく引き下げ、約876万円の経済効果を得ています。更なる対策として11月下旬より、有効性や安全性、費用対効果などを踏まえて処方できる医薬品を「第一選択薬」、「第二選択薬」として標準化し10薬効群のフォーミュラリーを策定し職員へ周知を行いました。

安全面では、開封後の医薬品の使用期限や定数薬の期限を見直し、期限切れ医薬品の投与が起こらないように職員への周知を行いました。また、使用されていない66品目の医薬品整理を行い、取り扱う医薬品を整理することで医薬品の取り間違いや選択ミスなどの防止対策に取り組みました。

令和6年11月に開催されたハンセン病コ・メディカル学術集会では、一般薬剤師が中心となり全国国立ハンセン療養所薬剤科に対して「薬剤科業務の実態調査」を実施し、より良い薬物治療の貢献についての結果報告を行いました。

抗菌薬適正使用支援チーム（AST）では、令和6年5月よりASTに参加を開始し、抗微生物剤の不適切使用や長期投与を確認しています。抗微生物剤の適正使用の取り組みは、世界保健機構の薬剤耐性（AMR）グローバルアクションプランを参考にして日本で策定されたアクションプランの1つです。今後も具体的なアクションプランを実施できるように推進していきます。

令和5年度は、人員不足のために参加出来ていないチーム医療が多数ありましたが、令和6年度より医療安全対策チーム、感染管理室チーム、認知症ケアチーム、栄養サポートチーム、褥瘡対策チーム、ライフサポート部会などの多くのチーム医療に参加し最善の薬物療法やライフサポートに貢献出来るように努めています。

研究検査科

臨床検査技師長 莊司 路

研究検査科は、臨床検査技師6名（常勤：5名、再任用1名）で、精度の高い検査結果を迅速に報告し、入所者に安心・安全で質の高い医療を提供できるよう努めています。

令和6年度は、園内検査として新たに遺伝子検査を導入し、検体検査（生化学・免疫・血液・一般）、微生物検査、病理検査、生理検査など多くの検査が園内検査室で実施できるようになりました。

【業務改善報告】

（1）新規医療機器の導入および更新

検査科で使用している医療機器は、購入から10年以上経過している機器が多く、経年劣化により修理頻度が増し、年間の修理費用が高額となってきました。今回、1年がかりで大幅な医療機器更新を行い、精度の高い検査結果を迅速に報告できるようになりました。

最新式の医療機器導入により、新規検査項目の選択肢を広げることができ、園内に必要な検査項目の導入が容易となりました。

令和6年度購入医療機器

品名	規格	取得年月日
自動採血管準備装置	BC・ROBO-900	R6.9.13
尿自動分析装置	US-2300	R6.2.19
ABL9血液ガスシステム	ABL9	R6.6.25
全自動免疫分析装置	コバス pure402	R6.11.29
生化学免疫自動分析装置	JCA-BM6010	R7.3.14
全自動細菌検査装置	DxM1040マイクロスキャン	R6.12.20
全自動遺伝子解析装置	Gene XpertシステムGX-IV	R6.6.26
超音波画像診断装置	Aplio i700	R6.3.13
睡眠時評価装置	ウオッチパット300	R6.12.25
コンペックスプローブ	C60 5-2MHz	R7.3.3
心電計	ECG-2550	R7.3.6
オージオメーター	AA-K1A	R7.3.14
研究用生物顕微鏡	ECLIPSE Ni-L	R7.3.14
安全用キャビネット	SCV-1609EC II A2	R7.3.12

(2) 新型コロナウイルス検査の対応について

新型コロナウイルス感染の有無については、これまでVITROS XT7600を使用し抗原定量検査にて判定してきました。抗原定量検査は、PCR検査に比べ感度が低いため、初回検査で陰性と判定されても、翌日の検査では陽性となることもあり、濃厚接触者は5日間スクリーニング検査を実施し陰性を確認していました。当園は、鼻腔ぬぐい液を検体として検査を実施するため、スクリーニング検査の度に不快な思いをされていた入所者も多かったと思われます。今回、自動遺伝子解析装置Gene Xpertシステムの導入により、濃厚接触3日目に感度の高いPCR検査を1回実施し、新型コロナウイルス感染の有無を確認することとなりました。これにより、検体採取時の負担軽減や、結果が報告されるまでの拘束時間の短縮など、これまでと比較すると大きな緩和に繋げることができました。

新型コロナウイルス検査依頼件数と陽性件数の推移

年度	入所者/職員	新型コロナウイルス定性	新型コロナウイルス定量	新型コロナウイルスPCR	合計
2023年度	入所者	12件 (2件)	343件 (15件)		355件 (17件)
	職員	464件 (25件)	311件 (22件)		775件 (47件)
2024年度	入所者	3件 (0件)	203件 (1件)	82件 (3件)	288件 (4件)
	職員	202件 (12件)	233件 (16件)	129件 (7件)	564件 (35件)

* () 内は陽性件数

【令和7年度事業計画】

- 令和6年度に新規導入した検査機器や更新機器について、手順書および記録用紙の改訂作業を実施する
- 各部署の採血管や採取容器について、期限および定数の管理をする
- 検査システムを使用し、職員健康診断業務の整備をする
- 多職種との連携業務に参画する

栄養管理室

栄養管理室長 間瀬 茂樹

令和6年度は、管理栄養士3名、調理師8名、事務員1名と委託職員14名でスタートしました。(調理師人員不足のため、朝食および食器洗浄については全面業務委託となっています。)

おいしく楽しめる食事提供の取り組みとして、前年度に引き続き「心のこもった手作りメニュー」の提供を行いました。また、能登半島復興支援として、石川県産食材の使用、石川県の郷土料理を提供いたしました。料理だけでなく、取組に対してもご理解あるお言葉をいただきました。

また、正月に行う「餅」の提供については、危険性の高い人向けに、餅米を使った餅ムースを作成し提供しました。危険性の評価や安全性の向上には、リハビリテーション科や看護部門をはじめ、園内全体で取り組みました。

さらに、栄養管理面でもNST（栄養サポートチーム）活動にて、園内各部署と連携し食事対応を行っています。

主な行事食

4月	園内たけのこ掘り 観桜会	たけのこ御飯 花見弁当 桜餅 甘酒	10月	スポーツの日	フルーツ盛り合わせ
5月	子供の日 新茶味見会	五目寿司 柏餅 新茶 水ようかん	11月	文化の日 新嘗祭	デザート おにぎり
6月	和菓子の日 夏至	和菓子 フルーツヨーグルト	12月	冬至 クリスマス 大晦日	かぼちゃ料理 ローストチキン ケーキ 年越しそば
7月	七夕 お盆 海の日 土用の丑	七夕ゼリー おはぎ シーフードカレー 鰻蒲焼き	1月	お正月 鏡開き	雑煮 おせち料理(1日~3日) 正月用お茶 おしるこ
8月	山の日 お盆 超早場米	山菜おこわ おはぎ 九州産超早場米	2月	節分 バレンタイン	五目寿司 福甘納豆 チョコレート
9月	敬老の日記念式典 敬老の日 お彼岸 開園記念日 十五夜	ぶどう 甘酒 お赤飯 おはぎ 折り詰め弁当 お月見和菓子	3月	ひなまつり お彼岸	ちらし寿司 水ようかん おはぎ

第1病棟・中央材料室

看護師長：田崎 明子

1. 病棟の特色

1) 1病棟

内科・外科病棟として急性期の役割を果たし、緊急の入院に対応している。高齢化に伴いハンセン病後遺症による重複障害や認知症、他の合併症などから、身体の不自由度が増しているため、多職種と連携しながら入退院の調整を行っている。また、高齢化に伴い終末期の過ごし方を居住区と共に検討し、患者の心に寄り添い、その人らしく安寧を保ちながら、より良い時間を過ごし最期を迎えることができるよう援助を行っている。その他園外から再入園を希望する患者の受け入れを行っている。

2) 透析室・中央材料室

現在、透析はしていないが、機械管理とメンテナンスを継続し、緊急対応に備えている。中央材料室は、医療材料の在庫管理とリストの整理を行い、無駄のない使用と適切な器材の滅菌に取り組んでいる。

2. 病棟目標

- 1) 入退院の円滑化を図り、入所者が安心して治療に専念できる場を提供する。
- 2) 終末期看護、認知症看護の充実を図る。
- 3) ケアカンファレンスを推進する。
- 4) ワークライフバランスを推進する。
- 5) 物品の最適化を図る。

3. 看護・介護体制

1) 職員の配置状況

令和6年4月1日現在

	配置数(合計)	配置数(定員内)	看護師・准看護師			看護助手・介護員								
			定員内	(再掲) フルタイム 再任用	再任用 短時間	非常勤	定員内				定員外			
							介護長	副介護長	左記以外	(再掲) フルタイム 再任用	賃金	期間業務	雇用継続	再任用 短時間
看護師長	0	0				/								
副看護師長	1	1												
看護師・准看護師 (上記以外)	19	0	1											
看護助手・介護員	3	3					1	2						

2) 看護・介護方式

固定チームナーシング 継続受け持ち制

3) 勤務体制

令和6年4月1日現在

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出		名	早出	7:00~15:30	1名
日勤	8:30~17:15	11名	日勤	8:30~17:15	1名
遅出		名	遅出		名
準夜	16:30~1:00	2名	準夜		名
深夜	0:30~9:00	名	深夜		名
二交代	16:00~9:15	2名	当直		名

4. 患者の状況

【前年度】入院患者

1日平均患者数	4.56名
平均在院日数	33.15日
病床利用率	15.17%
平均年齢	93.5歳

【前年度】疾患別構成

呼吸器系疾患	7名
整形外科疾患	7名
脳神経疾患	5名
消化器系疾患・食思不振	5名
循環系疾患	5名
皮膚疾患	2名
コロナウイルス感染症	11名
その他	11名

【前年度】手術・人工透析等件数

手術	0件
人工透析	0件

5. 患者の状況（現在）

1) 入院患者

令和6年4月1日現在

患者数	2名
病床利用率	15.17%
平均年齢	93.5歳

4) 看護度

令和6年4月1日現在

	I	II	III	IV
A	0	0	0	0
B	0	1	0	0
C	0	1	0	0

2) 不自由度

令和6年4月1日現在

特重	1
重	1
中	0
軽	0
一般	0

5) 身体状況

令和6年4月1日現在

全盲	0名
弱視	0名
難聴	0名
片義足	0名
両手指欠損	0名
片手指欠損	0名
認知症	1名

3) ADL状況

令和6年4月1日現在

	全介助	一部介助	自立
入浴	1	1	0
食事	0	2	0
排泄	0	2	0
移動	1	1	0

やすらぎ病棟

看護師長：田崎 明子

1. 病棟の特色

ハンセン病後遺症のある後期高齢者や認知症、精神疾患関連の病棟である。急性期病棟の後方支援病棟として、点滴や酸素吸入、吸引など生活を維持するための医療処置を必要とするまたはその可能性の高い入所者を受け入れ、ケアをしている。入所者は長年住み慣れた一般寮、センターでの生活が困難となり、生活全般の介助を要する。日常ケアでは、ADLの低下予防、寝たきりにしないことをモットーに残存機能維持に留意している。その人らしく生きるサポートとして、病棟レクリエーションを充実させること、心の安らぎとして信仰している宗教への参加、舎籍のあるセンターで短時間であっても過ごす時間を提供する等、日々の生活の中にやすらぎと楽しみを得られるように援助している。カンフォータブル・ケアを取り入れ、入所者が安らかに、穏やかに過ごせるように取り組んでいる。

2. 病棟目標

- 1) 入所者が生きがいを感じられるような生活を支えることができる。
- 2) 入所者の意向に沿ったケアが提供できる。
- 3) 根拠に基づいた看護・介護を実践する人材を育成する。

3. 看護・介護体制

1) 職員の配置状況

令和6年4月1日現在

	配置数(合計)	配置数(定員内)	看護師・准看護師			看護助手・介護員								
			定員内	(再掲) フルタイム 再任用	再任用 短時間	非常勤	定員内				定員外			
							介護長	副介護長	左記以外	(再掲) フルタイム 再任用	賃金	期間業務	雇用継続	再任用 短時間
看護師長	1	1												
副看護師長	1	1												
看護師・准看護師 (上記以外)	25	25			1									
看護助手・介護員	7	7												

2) 看護・介護方式

継続受け持ち制 一部機能別

3) 勤務体制

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	1名	早出	7:00~15:30	3名
日勤	8:30~17:15	12名	日勤	8:30~17:15	2名
遅出	10:30~19:00	1名	遅出	9:00~16:00	1名
準夜	16:30~1:00	2名	準夜		名
深夜	0:30~9:00	2名	深夜		名
二交代	16:00~9:15	2名	当直		名

4. 患者の状況

【前年度】 入室患者

1日平均患者数	11.01名
平均在院日数	1302.67日
病床利用率	25.92%
平均年齢	93.2歳

【前年度】 疾患別構成

アルツハイマー型認知症	7名
血管性認知症	2名
その他の認知症	1名
精神発達遅滞	1名

【前年度】 手術・人工透析等件数

手術	0件
人工透析	0件

5. 患者の状況（現在）

1) 入室患者

令和6年4月1日現在

患者数	10名
病床利用率	25.92%
平均年齢	93.2歳

4) 看護度

令和6年4月1日現在

	I	II	III	IV
A	0	0	0	0
B	1	7	2	0
C	0	0	0	0

2) 不自由度

令和6年4月1日現在

特重	8
重	2
中	0
軽	0
一般	0

5) 身体の状況

令和6年4月1日現在

全盲	0名
弱視	2名
難聴	2名
片義足	0名
両手指欠損	1名
片手指欠損	0名
認知症	10名

3) ADL状況

令和6年4月1日現在

	全介助	一部介助	自立
入浴	9	1	0
食事	5	3	2
排泄	8	2	0
移動	8	2	0

第1センター（不自由者棟）

看護師長：不破 理映

1. 不自由者棟の特色

1) 入所者の特徴

ハンセン病後遺症と高齢による重複障害及び合併症を持った不自由度の高い夫婦と、独身者を対象とした生活の場である。平均年齢は、89歳であり、歩行困難者や車椅子利用者は、入居者の約80%を占め、視力障害や聴力低下・認知症も併発し、介助を必要としている。

2) 看護・介護の特徴

入居者が、安全に過ごすことができ、その人らしく生活するために、看護師・介護員連携を強化し、生活・健康に関わる援助を行っている。認知機能や身体能力の維持のためにレクリエーション・体操を計画し、日常生活が充実するように買物に付き添うなど入所者の生活をささえている。第1センターで最期まで過ごしたい気持ちを尊重し、安全で安心して生活できるように体制を整備している。

2. 不自由者棟目標

- 1) 看護・介護が協力し、24時間入所者の健康を管理し、体調変化に対応できる
- 2) センター内の居室・敷地内の環境整備し、転倒予防に努める
- 3) 職員全体で入所者の情報を共有し、個別性のある日常生活援助を行うことができる

3. 看護・介護体制

1) 職員の配置状況

令和6年4月1日現在

	配置数(合計)	配置数(定員内)	看護師・准看護師			看護助手・介護員								
			定員内	(再掲) フルタイム 再任用	再任用 短時間	非常勤	定員内				定員外			
							介護長	副介護長	左記以外	(再掲) フルタイム 再任用	賃金	期間業務	雇用継続	再任用 短時間
看護師長	1	1	1			/								
副看護師長	1	1	1											
看護師・准看護師 (上記以外)	21	20	20		1									
看護助手・介護員	41	30				3	5	22	2		5			6

2) 看護・介護方式

看護師：13寮（4名）14寮（4名）15寮（4名）16寮（4名）17寮（4名）寮ごとの受け持ち制及び一部機能別

介護長：13.14（1名）、15寮（1名）、16.17寮（1名）1年交替

副介護長：13.14.15.16.17寮（各1名）6ヶ月交替

介護員：各寮 6ヶ月ごと交替

3) 勤務体制

令和6年4月1日現在

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	14名
日勤	8:30~17:15	10名	早出	7:30~16:15	0名
準夜	16:30~1:00	2名	早出	8:00~16:45	0名
深夜	0:30~9:00	3名	日勤	8:30~17:15	10名
二交替	16:00~9:15	0名	遅出	9:15~18:00	6名
			遅出	12:30~21:00	0名

4. 入所者の状況

【前年度】入所者の状況

在籍者数	30名
居室利用率	44.9%
平均年齢	89.9歳

5. 入所者の状況（現在）

1) 入所者数

令和6年4月1日現在

在籍者数	30名
居室利用率	44.9%
平均年齢	89.9歳

4) 看護度

令和6年4月1日現在

	I	II	III	IV
A	2	0	0	0
B	3	2	14	2
C	0	0	2	5

2) 不自由度

令和6年4月1日現在

特重	9
重	7
中	5
軽	5
一般	4

5) 身体状況

令和6年4月1日現在

全盲	5名
弱視	3名
難聴	10名
片義足	1名
両手指欠損	2名
片手指欠損	1名
認知症	7名

3) ADL状況

令和6年4月1日現在

	全介助	一部介助	自立
入浴	15	11	3
食事	2	22	5
排泄	8	16	5
移動	5	20	4

第3西センター（不自由者棟）

看護師長：田澤 理恵

1. 不自由者棟の特色

1) 入所者の特徴

ハンセン病の後遺症に加えて、加齢によって生じた重複障害を抱える入所者の療養生活の場である。

平均年齢は88.6歳。ADLや認知機能が低下し、歩行・入浴介助などの日常生活の支援を受けながら療養生活を過ごしている。

2) 看護・介護の特徴

看護師介護員が24時間常時滞在し、ハンセン病の後遺症や加齢によって生じた重複障害を抱える入所者が健康で安全安楽に過ごせるよう関わっている。入所者の習慣や文化を大切にし、個人を尊重すると共に、心の安らぎを得て生活できる環境作りを心がけている。誤嚥防止の嚥下体操や認知症予防対策、引きこもり防止のためのレクリエーションを行い、入所者同士の交流を図っている。また、第3西センターで看取りを希望される方への体制作りを行い、最期までその人らしく過ごして頂くよう看護師介護員が連携し対応している。

2. 不自由者棟目標

- 1) 入所者へ安全で安心な生活環境を提供するため、看護・介護の連携を強化する
- 2) 入所者への安全な医療の提供のため、与薬管理業務の改善を行う
- 3) 入所者の思いや歴史を理解し、エンドオブライフケアの充実を図る

3. 看護・介護体制

1) 職員の配置状況

令和6年4月1日現在

	配置数(合計)	配置数(定員内)	看護師・准看護師			看護助手・介護員								
			定員内	(再掲) フルタイム 再任用	再任用 短時間	非常勤	定員内				定員外			
							介護長	副介護長	左記以外	(再掲) フルタイム 再任用	賃金	期間業務	雇用継続	再任用 短時間
看護師長	1	1	1											
副看護師長	1	1	1											
看護師・准看護師 (上記以外)	22	20	20		2									
看護助手・介護員	28	23				2	3	18			3			2

2) 看護・介護方式

3) 勤務体制

令和6年4月1日現在

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	10名
日勤	8:30~17:15	10名	早出	7:30~16:15	1名
遅出	9:15~18:00	1名	日勤	8:30~17:15	5名
準夜	16:30~1:00	2名	遅出	9:15~18:00	4名
深夜	0:30~9:00	3名	遅出	10:30~19:00	1名
二交代	16:00~9:15				

4. 入所者の状況

【前年度】入所者の状況

在籍者数	27名
居室利用率	62.80%
平均年齢	88.6歳

5. 入所者の状況（現在）

1) 入所者数

令和6年4月1日現在

在籍者数	24名
居室利用率	55.80%
平均年齢	88.5歳

4) 看護度

令和6年4月1日現在

	I	II	III	IV
A	1	0	0	0
B	1	2	3	0
C	0	0	8	9

2) 不自由度

令和6年4月1日現在

特重	7
重	6
中	4
軽	4
一般	3

5) 身体状況

令和6年4月1日現在

全盲	2名
弱視	9名
難聴	7名
片義足	2名
両手指欠損	1名
片手指欠損	7名
認知症	10名

3) ADL状況

令和6年4月1日現在

	全介助	一部介助	自立
入浴	10	4	10
食事	2	4	18
排泄	3	5	16
移動	2	12	10

治療棟

看護師長：吉田 輝子

1. 治療棟の特色

治療棟には、専門医皮膚科・一般皮膚科・眼科・外科・整形外科・耳鼻科・リハビリテーション科・内科・リウマチ科・精神科・泌尿器科・歯科の12診療科がある。専門医皮膚科では、ハンセン病の診断・治療を行っている。

1) 入所者の外来診療

ハンセン病後遺症の診療、老年期医療、入所者健康診断、各種予防接種の医療を提供している。

2) 園外受診者の外来診療

社会復帰者へのハンセン病後遺症の診療、在日外国人へのハンセン病の診断・治療を行っている。

また、医療社会事業専門職と連携し、再入園の窓口として機能している。

3) 看護外来

一般寮入所者を対象としたハンセン病後遺症の足病変の予防のためフットマッサージと爪ケアを行うとともに安楽で楽しいひとときを提供している。

4) 委託診療連携

委託診療機関への外来受診・入院・退院・面会等の窓口となっている。

2. 治療棟目標

- 1) 入所者が安心して外来診療・委託診療を受けられるように関係部署との連携を図る。
- 2) 園外の受診者が安心して外来診療を受けられるように接遇の向上を図る。
- 3) 看護外来では、入所者の安楽に配慮し、足病変の予防を行う。
- 4) 医療機器・備品・設備の適切な管理を行う。
- 5) ワークライフバランスの充実を図る。

3. 看護・介護体制

1) 職員の配置状況

令和6年4月1日現在

	配置数(合計)	配置数(定員内)	看護師・准看護師				看護助手・介護員								
			定員内	(再掲) フルタイム 再任用	再任用 短時間	非常勤	定員内				定員外				
							介護長	副介護長	左記以外	(再掲) フルタイム 再任用	賃金	期間業務	雇用継続	再任用短時間	非常勤
看護師長	1	1	1	0	0	0									
副看護師長	1	1	1	0	0	0									
看護師・准看護師 (上記以外)	14	14	14	0	0	0									
看護助手・介護員	3	2					0	0	2	0	0	0	0	0	1

2) 勤務体制

令和6年4月1日現在

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	1名
日勤	8:30~17:15	12名	日勤	8:30~17:15	2名
遅出	12:30~21:00	0名	遅出	9:00~17:45	0名
準夜	16:30~1:00	1名	準夜		名
深夜	0:30~9:00	1名	深夜		名
二交代	16:00~9:15	0名	当直		名

4. 患者（入所者）の状況

1) 診療科別受診者数（前年度）

診療科	専門皮膚科	一般皮膚科	眼科	外科	整形外科	耳鼻科	リハビリテーション科	内科	リウマチ科
年間延べ人数	2713	763	776	277	1220	3055	1261	2521	24
月平均	226.0	63.5	64.6	23.0	101.6	254.5	105.0	210.0	2.0

診療科	精神科	泌尿器科	歯科
年間延べ人数	573	202	2146
月平均	47.7	16.8	178.8

2) 検査状況と手術件数（前年度）

検査	超音波エコー	喉頭ファイバー	CT	バイオブシー	手術
年間延べ人数	129	64	83	8	1
月平均	10.7	5.3	6.9	0.6	0.1

3) 訪問看護件数（一般舎の入所者の所へ治療棟看護師が訪問した回数）（前年度）

年間延べ人数	0
月平均	0
平日平均数	0

5. 看護師・看護助手（看護課所属）が委託診療を受ける入所者へ付き添った件数（前年度）

	入院	外来	退院	面会 等
看護師が付き添った延べ件数	22	189	25	124
看護助手が付き添った延べ件数	0	2	0	0
合計	22	191	25	124

一般寮支援室

看護師長：柴田 理枝

1. 一般寮支援室の特色

1) 入所者の特徴

ADLが概ね自立した入所者（元ハンセン病患者）が療養生活を過ごされている。入所者の平均年齢は84.5歳。年齢層は、70代から90代と幅が広く、ハンセン病の後遺症に加えて、加齢によって生じた重複障害を抱えている。そのため、体調が優れないときは、病棟への入院やセンターへのショートステイ等を利用し、職員のサポート支援を受けながら日常生活を過ごされている。

2) 看護・介護の特徴

看護は、健康管理、生活支援を中心とした活動を行っている。原則平日に居室を訪問し、服薬管理、感染対策の啓蒙活動、体調不良時の外来受診の付き添い、転倒防止や火災の危険に対する環境調整を行っている。

介護は、身体的介助はほとんどなく、日常生活の支援、庭の木々の剪定などを行っている。

2. 一般寮支援室目標

- 1) 入所者29名のケアカンファレンスを2回/年実施し多職種と情報共有すると共に協働して異常の早期発見対応を行う
- 2) 入所者の生きがいや望みを聴き実現に向ける
- 3) 入所者がセンターへの居室移動を希望される場合、人生サポート室と協働し生活環境を整える

3. 看護・介護体制

1) 職員の配置状況

令和6年4月1日現在

	配置数(合計)	配置数(定員内)	看護師・准看護師			看護助手・介護員								
			定員内	(再掲) フルタイム 再任用	再任用 短時間	非常勤	定員内				定員外			
							介護長	副介護長	左記以外	(再掲) フルタイム 再任用	賃金	期間業務	雇用継続	再任用 短時間
看護師長	1	1	1											
副看護師長	1	1	1											
看護師・准看護師 (上記以外)	7	7	7											
看護助手・介護員	4	4					4							

2) 看護・介護方式

プライマリーナーシング

3) 勤務体制

令和6年4月1日現在

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	0名
日勤	8:30~17:15	7名	日勤	8:30~17:15	4名
遅出	12:30~21:00	0名	遅出	9:00~17:45	0名
準夜	16:30~1:00	1名			
深夜	0:30~9:00	1名			
二交代	16:00~9:15	0名			

4. 入所者の状況（前年度）

【前年度】入所者の状況

在籍者総数	34名
居室利用率	20.85%
平均年齢	83.6歳

5. 入所者の状況（現在）

1) 入所者数

令和6年4月1日現在

在籍者数	29名
居室利用率	19.50%
平均年齢	85.5歳

4) 看護度

令和6年4月1日現在

	I	II	III	IV
A	0	0	0	0
B	0	0	0	0
C	0	0	1	28

2) 不自由度

令和6年4月1日現在

特重	0
重	0
中	3
軽	9
一般	17

5) 身体の状況

令和6年4月1日現在

全盲	0名
弱視	0名
難聴	4名
片義足	1名
両手指欠損	0名
片手指欠損	0名
認知症	0名

3) ADL状況

令和6年4月1日現在

	全介助	一部介助	自立
入浴	0	0	29
食事	0	0	29
排泄	0	0	29
移動	0	0	29

ライフサポート室

看護師長：太田 薫

1. 部署の特色

入所者のこれまでの人生での思いやこれからこう生きたい、また人生の最期をどう過ごしたいかという思いまでを聞き取ることで（人生サポートノート）、希望を形にし、人生を豊かにしていただくために組織横断的に活動し、多職種連携のもと支援を実施している。また不自由者棟、やすらぎ病棟、1病棟、一般寮支援室のケアカンファレンスに参加し、多職種と意見交換を行い入所者理解につなげている。

人生サポート委員会のもと、認知症対策部会、寮籍部会、ライフサポート部会、難聴対策プロジェクトチームにおいても中心的役割を担う。

2. 部署目標

1) 入所者の満足度、人生の充実度につながる支援を行なう。

各部署のケアカンファレンスや人生サポートノートで明らかになった、生きがいや望みへ迅速に対応する。

入所者の日常生活の充実を図るために、各種行事の内容を他部署と調整し充実させる。

2) 認知症への理解を深め、高い倫理観を持った職員の育成につなげる。

認知症ケアチームによる勉強会の開催

3) ライフサポート室の活動を入所者や全職員に情報発信する。

人生サポートニュースの発行（毎月1回発行）

3. 看護・介護体制

1) 職員の配置状況

令和6年4月1日現在

	配置数(合計)	配置数(定員内)	看護師・准看護師			看護助手・介護員								
			定員内	(再掲) フルタイム 再任用	再任用 短時間	非常勤	定員内				定員外			
							介護長	副介護長	左記以外	(再掲) フルタイム 再任用	賃金	期間業務	雇用継続	再任用 短時間
看護師長	1	1												
副看護師長	1	1												
看護師・准看護師 (上記以外)	0	0												
看護助手・介護員	0	0												

2) 勤務体制

令和6年4月1日現在

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出		名	早出		名
日勤	8:30~17:15	2名	日勤		名
遅出		名	遅出		名
準夜		名	準夜		名
深夜		名	深夜		名
			当直		名

4. 運営状況

・人生サポートノート

R5年度終末期医療に対する意思確認は意思表示が可能な入所者はほぼ全員が更新している。
引き続き人生サポートノートの更新を実施する。

・公用車による入所者の個別送迎業務運行

R5年度で多磨の杜事業の廃止。R6年度4月1日より、新事業として開始している。

・ケアカンファレンスへの参加

全部署、全入所者のケアカンファレンスに入所者の状況や要望を把握する為参加している。

・認知症ケアチーム会

R5年度 さくらなみき新聞の発行（年5回）、認知症ケア学習会（3回）や外部講師によるカンフォーダブル・ケアの講演会、事例検討会（5事例）を実施した。

・人生サポートニュースの発行

R5年3月刊行。R6年度は月1回発行で継続している。

教育担当

教育担当看護師長：緒方 純子

1. 教育実施状況

◇施設内教育委員会（前年度）

（1）目的

- ・国立療養所多磨全生園及び看護部の理念と方針に基づいて、組織の一員としての自覚を高め行動できる人材を育成する。
- ・ハンセン病療養所で生活する入所者の歴史が理解でき、人権を尊重し、社会に向けて啓発できる人材を育成する。
- ・ハンセン病療養所の職員として、専門知識・技術を習得し、看護・介護が実践できる人材を育成する。
- ・専門職業人として、自己研鑽できる人材を育成する。

（2）目標

- ・ハンセン病療養所の看護職員としての役割と責任を自覚して倫理観を持った行動できる能力を養う。
- ・入所者の歴史を理解し、人権を尊重した看護・介護が提供できる能力を養う。
- ・ハンセン病及びその後遺症が理解でき、適切な看護・介護が提供できる能力を養う。
- ・高齢化している入所者に対応するため、老年の特徴を理解し、看護・介護ができる能力を養う。
- ・入所者が生きていることの充実感を満たせるようにQOLの向上をはかる能力を養う。
- ・入所者、家族（保護者）、医療メンバーとの望ましいコミュニケーションを図るための能力を養う。
- ・医療やハンセン病療養所の動向に目を向け、今日的な専門知識・技術を習得し、看護・介護が提供できる能力を養う。
- ・臨床看護研究や研修を通じ、ハンセン病看護の専門性及び看護・介護の質的向上を図る。

（3）内容

研修名	目標	対象者	人員	実施日
新採用者 オリエンテーション	国立療養所多磨全生園の一員としての自覚を持ち 役割と責任を認識する	新採用者 中途採用者 異動者	27名	令和6年4月1日 ～3日
【e-ラーニング】 移動・移乗の介助 (ラダーI)	入所者の状態に合わせた安全な移乗・移動介助が できる	看護師	1名	令和6年5月

研修名	目標	対象者	人員	実施日
【e-ラーニング】 薬剤管理 (ラダーⅠ)	安全な与薬管理を理解する	看護師	1名	令和6年5月
【e-ラーニング】 メンバーシップ (ラダーⅡ)	看護チーム内で自分の役割を理解し、業務を遂行することができる	看護師	2名	令和6年5月
【e-ラーニング】 後輩育成③ (ラダーⅣ)	コーチングを理解し、行動できる	看護師	4名	令和5年5月
リーダーシップ① (ラダーⅢ)	主体的にチームの一員としての役割を遂行する 部署でリーダーシップを発揮し、事例を発表できる	介護員	4名	令和6年5月21日 10月15日 12月12日
【e-ラーニング】 静脈血採血 (ラダーⅠ)	安全な採血と検体の取り扱いを手順に基づいて実施する	看護師	1名	令和6年6月
看護過程② (ラダーⅡ)	看護過程を展開し、根拠に基づいた看護を実践することができる	看護師	2名	令和6年6月21日 12月17日
公開研修 ロジカルシンキング (ラダーⅢ)	論理的思考を身につけ、自部署の課題解決能力を養う	看護師	2名	令和6年6月7日 10月31日
業務改善 (ラダーⅣ)	自部署の目標を達成するための方策を見出し、問題解決の過程を学ぶ	看護師	4名	令和6年6月14日 令和7年1月15日
公開研修 看護マネジメント (ラダーⅤ)	自部署の課題を明確にし、課題解決に向けた実践を通して看護マネジメント能力を養う	看護師	5名	令和6年6月24日 令和6年1月29日
メンバーシップ (ラダーⅡ)	メンバーシップについて理解できる	介護員	2名	令和6年6月10日
フットケア	ハンセン病療養所の看護師としてフットマッサージに関する必要な知識・技術を習得する	看護師	5名	令和6年6月25日
プリセプター フォローアップ	後輩の学習を支援し、後輩育成の役割を果たす	看護師	6名	令和6年6月 (e-ラーニング) 9月17日(集合) 令和7年1月20日 (出前講座)
【e-ラーニング】 2ヶ月の振り返り (ラダーⅠ)	職場に適応し、ストレスコントロールや健康管理について語る	看護師	1名	令和6年7月
【e-ラーニング】 食生活支援 (ラダーⅠ)	食生活支援における看護・介護の役割がわかる	看護師	1名	令和6年7月
【e-ラーニング】 看護過程① (ラダーⅠ)	当園の看護介護記録・情報収集の方法がわかる	看護師	1名	令和6年7月～10月
【e-ラーニング】 フィジカル アセスメント② (ラダーⅡ)	入所者の状態をアセスメントし、緊急度を捉え、生命に関わる問題点の優先度がわかる	看護師	2名	令和6年7月
公開研修 看護倫理 (ラダーⅡ)	意思決定支援における看護師の役割を理解し、看護実践に活かすことができる	看護師	2名	令和6年7月31日

研修名	目標	対象者	人員	実施日
看護管理 (ラダーⅣ)	部署の管理に必要な知識を理解する	看護師	4名	令和6年7月12日
経営について (ラダーⅣ・Ⅴ)	(Ⅳ) 財務の視点を持ち、業務改善に取り組むことができる (Ⅴ) 財務の視点を持ち、経営改善・業務改善に取り組むことができる	看護師	9名	令和6年7月19日 9月13日
後輩育成① (ラダーⅡ)	新人介護員の支援について理解する	介護員	2名	令和6年7月10日
倫理③ (ラダーⅢ)	倫理に基づいた介護を入所者に提供できる	介護員	3名	令和6年7月26日
【e-ラーニング】 フィジカル アセスメント① (ラダーⅠ)	入所者の状態に適した観察・測定ができる	看護師	1名	令和6年9月
倫理② (ラダーⅡ)	自己の倫理的問題を明確にする	介護員	2名	令和6年9月11日
後輩育成② (ラダーⅢ)	主体的にチームの中心となり、指導ができる	介護員	3名	令和6年9月25日
【e-ラーニング】 静脈注射① 静脈注射② (ラダーⅠ)	①静脈注射を受ける患者の看護が理解できる ②静脈注射を安全に実施するための知識・技術を習得する	看護師	1名	①令和6年9月 ～10月 ②令和6年12月 ～令和7年1月
6か月の振り返り (ラダーⅠ)	入職後半年を振り返り、看護実践を自己評価し、今後の課題と取り組みについて見出す	看護師	1名	令和6年10月 ～11月
【e-ラーニング】 倫理① (ラダーⅠ)	看護倫理について必要な基礎知識を理解し、臨床における倫理的課題に気付くことができる	看護師	1名	令和6年11月
公開研修 ファシリテーション (ラダーⅣ)	ファシリテーションを用いたコミュニケーションについて習得、実践することで、チームリーダーとしての役割を果たすことができる。	看護師	1名	令和6年11月15日
園内認定創傷ケア 看護師養成研修	ハンセン病後遺症における屈曲指の胼胝ケア、胼胝下潰瘍、等、専門的知識・技術を用いて質の高い看護を実践できる能力、及び他の看護師の指導・相談を行なうことができる	看護師	9名	令和6年11月14日
【e-ラーニング】 リーダーシップ (ラダーⅢ)	主体的にチームの一員としての役割を遂行する	看護師	1名	令和6年12月
1年の振り返り (ラダーⅡ)	日々の看護実践を振り返り、自己の成長に気づくとともに、次年度の課題を明確にする	看護師	2名	令和7年1月
1年の振り返り (ラダーⅠ)	自己の看護を振り返り、看護師としての成長を自覚する	看護師	1名	令和7年2月
後輩育成① (ラダーⅡ)	プリセプターとして新人看護師の不安を取り除き、職場にスムーズに適応するための支援を理解する	看護師	2名	令和7年2月26日
急変時の看護 BLS	入所者の状態変化・急変に気づき、対応できる	看護師	6名	令和7年3月3日

3. 看護学校

教育主事 佐藤 陽子

I. 令和6年度看護学校目標

1. 質の高い教育実践

- 1) カリキュラム改正の主旨に沿った授業の実施
- 2) 看護師国家試験全員合格に向けた支援
- 3) 臨床と連携した効果的な実習指導
- 4) 高い倫理観の醸成に向けた関わり
- 5) 研究授業の実施
- 6) 看護研究の実施と成果の活用
- 7) 看護教員能力開発を意識した自己研鑽

2. 基礎学力の高い入学生の確保

- 1) 適切な入学試験の実施
- 2) 広報活動の充実

3. 学生個々に応じたキャリア支援

- 1) キャリアを見据えた就職支援の実施
- 2) 当園及び実習施設の就職者の確保

4. 働きやすい職場環境づくり

- 1) 業務改善と連携・協働の強化
- 2) 健康管理の徹底
- 3) ワークライフバランスの実現

II. 教育計画（2024年4月～2025年3月）

月 日	内 容
4月4日	始業式
4月5日	入学式 第57回生 10名 入学
4月17日・23日	春の健康診断
5月15日	防災訓練
6月29日	学校説明会
7月1日	学生自治会 七夕（園内短冊飾りつけ）
7月31日	学校説明会
8月1日	教員夏期研修会
8月2日	学校説明会
9月19日・25日	秋の健康診断

月 日	内 容
10月10日	学校推薦入学試験
11月1日	全生園祭 展示
11月26日	一般入学試験・第2回学校推薦入学試験
2月16日	第114回看護師国家試験
3月3日	特別講演「看護師として働き続ける魅力、これからの看護師に期待すること」
	講師：梅津 珠子（多磨全生園看護部長）
3月6日	第56回卒業式 第56回生 10名 卒業
3月14日	終業式

4. 新型コロナウイルス感染症への対応

感染管理室長 岡 慎一
感染管理認定看護師 関 由貴子

1. 令和5年度までの実績

- 1) 入所者同士のカラオケ、屋外での納涼祭（花火鑑賞）など制限を徐々に解除したが、入所者の令和5年度の感染率は、令和4年度と同等であった。
- 2) 感染者に重症者はいなかった。

2. 令和6年4月時点での問題点

- 1) コロナは年2回の流行の波を繰り返していた。
- 2) 入所者が感染した場合の重症化の可能性は否定できず、比較的厳しい感染対策を継続していた。その中で、レクリエーションなどを少しずつ再開していたが、一層の緩和が期待されていた。

3. 令和6年度の目標

感染対策と緩和のバランスをとり、感染状況を悪化させることなく、安心・安全な入所者の療養生活を支援する。

4. 活動内容

- 1) 「新型コロナ感染状況に応じた園内対応指針」の作成
 - ・感染対策を緩和するとしたら何がしたいか、入所者の希望を聴取した。
 - ・都内および園内のコロナの流行状況から独自のレベル分類を作成した。
 - ・入所者が希望する行事等に対し、レベル分類がどの段階であれば何が可能で、何はまだできないのかなど、具体的な園内対応指針を提示した。(図1)
- 2) 感染者・濃厚接触者対応の見直し
 - ・職員および入所者が感染した場合の対応、濃厚接触者になった場合の対応に関し、科学的根拠に基づき、制限の日数や検査日を決定した。
 - ・PCRの導入により、検査回数を減らした。

5. 実績

非流行期には以前よりも緩和された条件下で面会や行事開催が可能となり、制限の厳しかった令和5年度よりも多くのイベントが開催できた。一方、園内のコロナ感染者数は、令和5年度は入所者14名（14.1%）、職員107名（26.8%）であったが、令和6年度は、入所者3名（3.3%）、職員72名（18.0%）と、入所者・職員ともに減少した。また、令和6年度の職員から入所者への感染は1例であった。(図2)

6. 次年度に向けて

入所者一人ひとりの希望に寄り添いながら、安心・安全な生活環境の維持に努めるとともに、可能な限りコロナ前の状態に近づけるよう、段階的な制限緩和を進めていく。

図1 新型コロナウイルス感染状況に応じた園内対応指針（令和6年7月25日改定版）

新型コロナウイルス感染状況に応じた園内対応指針（令和6年7月25日現在）

＜全レベルの共通事項＞

1. 来園者（面会者、来賓、取材者、ボランティアなど）の対応
 - (1) 必ず園に事前連絡
 - (2) 来園時、窓口の部署で検温を行い、「面会簿」または「健康状態申告書」に記入
*ただし、屋外の取決めより短時間（5分以内）の滞在で入所者と接触がない場合は不要
2. マスクの着用について
 - (1) 屋外でのマスク着用は、入所者、職員、来園者ともに任意
 - (2) 職員と来園者は、屋内ではマスク着用（屋外でも入所者と会話をしている際はマスク着用）
 - (3) 入所者には、外来など園外の人と接触する可能性がある場所でのマスク着用を推奨

* この内容は、今後の社会情勢等により修正・変更する可能性があります。
* 園内行事、各部署のレクリエーション計画、公的な来園者対応等についてはこれまでどおり、感染管理室へ企画書の提出をお願いします。

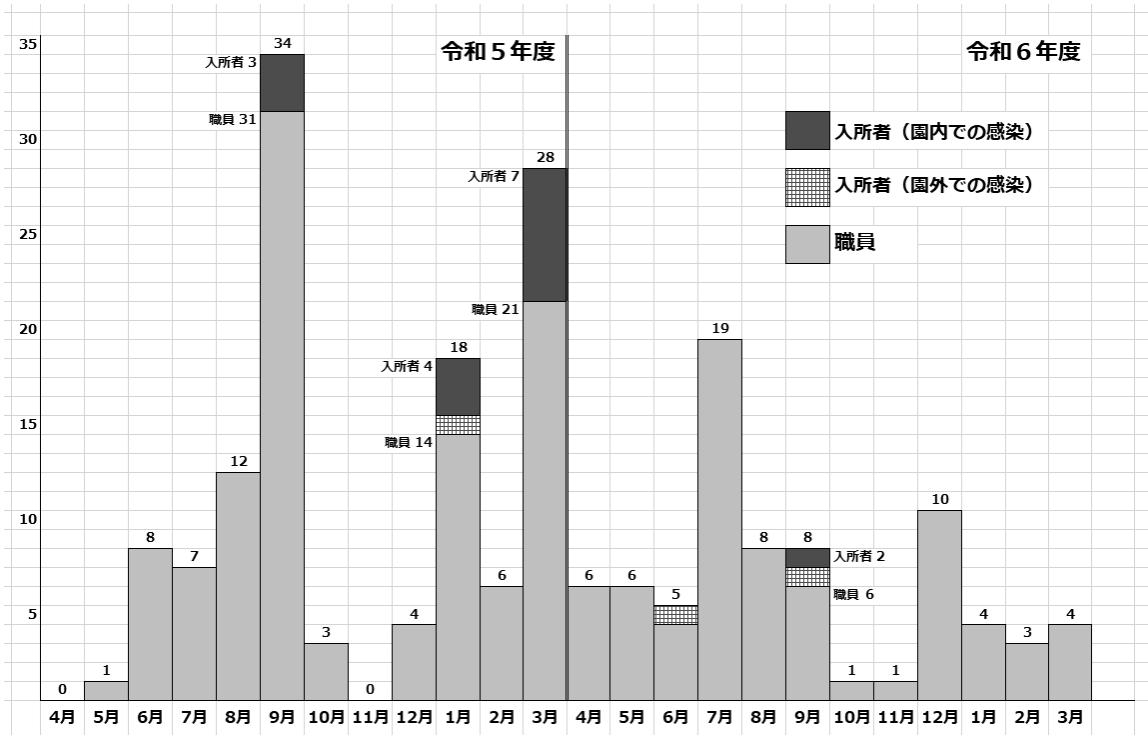
(A)	・飲食可 （一緒に食事をする職員は、当日にコロナ抗原定性検査で陰性確認をして参加） ・カラオケ、コース可 （カラオケ・コースで歌う職員は、当日にコロナ抗原定性検査で陰性確認をして参加） ※当園が企画したイベントにおいては、園外者の検査も検討
(B)	・飲食、カラオケ、コースは入所者のみ可 （職員は飲食不可・歌わない） ※当園が企画したイベントにおいては、園外者の検査も検討

レベル分類	※常設部の定員数/職員数 当記事掲載人数※		全部署の感染状況 (病棟・センター)		個別の面会者対応		入所者個人の 外出・外泊 ・委託入院		屋内での集団飲食・カラオケ・ コース・J/L/LK		園内行事・催し物		葬儀関連		施設内の一般開放	
	↓下階時	↑上階時	入所者	入所者と接する 部署の職員	入所者 同士	園外からの面会者	入所者 同士	園外者の 参加	入所者 と職員	園外者の 参加	屋外	屋内	全生園まつり 納涼祭 など	葬儀関連	屋外	面会入 宿泊所
レベル1	5人未満	3人未満	・陽性者なし ・検査対象者なし	入所者3日前～ 陽性者なし	制限なし	・面会者は、屋内マスク着用 ・面会者との飲食可 ・飲酒は個室のみ可 ・重症での飲酒不可 ・人数制限、時間制限なし	制限なし (部署へ届出)	制限なし	・飲食可 (検査不要) ・カラオケ、コース可 (検査不要)	・園内行事への来賓出席可 ・ボランティアや園児による催し物 ・飲食、カラオケ、コース可 (検査不要) *観覧会、懇親の甘酒提供は 安全面に配慮して可	・室内マスク着用 ・友人、知人、宗教関係者の 参列および火葬場への 同行可 ・讃美歌の合唱、参列者の 送迎可	・職員による 送迎可 ・園外の方は 別会場での 花火鑑賞 のみ可	・友人、知人、宗教関係者の 参列および火葬場への 同行可 ・讃美歌の合唱や読経は 控える（録音で対応）	・立入許可区域 内の散策は可 (飲酒および 遊戯は不可)	・レベルにかかわらず、入所者との 飲食は不可	
レベル2	5～10人	3～8人	・陽性者なし ・検査対象者なし	職員陽性者 が発生しても入 所者が検査対 象でない場合は レベル2	制限なし	・面会者は、屋内マスク着用 ・面会者との飲食可 (検査不可) ・重症での飲酒不可 ・人数制限、時間制限なし	飲食を伴う場合 (委託入院、里 帰りを含む)は 帰園後5日間 検査2検	(A)	・園外者は 参加不可 ・飲食、カラオ ケ、コース 可 (検査不要)	*観覧会、 懇親の甘酒 提供は、安全 面に配慮して 可	(A)	・園外の方は 別会場での 花火鑑賞 のみ可	・友人、知人、宗教関係者の 参列および火葬場への 同行可 ・讃美歌の合唱や読経は 控える（録音で対応）	・立入許可区域 内の散策は可 (飲酒および 遊戯は不可)	・利用者1組 2名まで (他園入所者 は制限なし)	
レベル3	10～20人	8～18人	・陽性者なし ・検査対象者あり	職員陽性者 が発生し、入所 者が検査対象 であった場合は レベル3	入所者の 検査対象 者がある場合 他部署 入所者は 訪問不可	・面会中は入所者、面会者 ともにマスク着用 ・面会者との飲食不可 ・人数：重症2名まで ・同行者は 時間制限なし	飲食を伴う場合 (委託入院、里 帰りを含む)は 帰園後5日間 検査2検 ・同行者は (A) に準ずる	入所者の検査対象者がいる場 合、当該部署での開催は延期ま たは中止とする (部署の感染状況よりレベル3 となった場合は、センター寮長会の 開催を延期する)	*観覧会、 懇親の甘酒 提供は、安全 面に配慮して 可	(B)	・園外者は 飲食不可	・友人、知人、宗教関係者の 参列および火葬場への 同行は控えていただく	・友人、知人、宗教関係者の 参列および火葬場への 同行は控えていただく	・立入許可区域 内の散策は可 (飲酒および 遊戯は不可)	・入所者との 飲食は不可	
レベル4	20人以上	18人以上	入所者の陽性 者発生時は レベル4	職員陽性者の 有無にかかわら ず、左記基準	緊急の場合を除き面会不可	行き先の流行状 況を考慮し、不要 不急の外出は控 える	状況により判断	状況により判断	状況により判断	開催中止を 検討	状況により判断	・讃美歌の合唱や読経は 控える（録音で対応）	・緊急の場合を 除き利用不可 (他園入所者 は利用可)			

※レベルにかかわらず、屋内でのレクリエーション後2日以内に参加者から陽性者が発生した場合は、マスク無しの参加者全員が濃厚接触者に該当とする

多磨全生園 園内感染対策委員会 令和6年7月25日 改定

図2 園内の感染者数（令和7年3月31日現在）



	令和5年度	令和6年度
入所者	14名(14.1%)	3名(3.3%)
職員	107名(26.8%)	72名(18.0%)

Ⅱ 行事・園外からの受入・研修等報告

1. 令和6年度 国立療養所多磨全生園主要行事表

月	行 事 名	実 施 日 時	備 考
4月	観桜会センターコーラス	4月4日(木) 午後1時30分～	
	看護学校入学式	4月5日(金) 午前10時30分～	
5月	園内歩け歩け運動	5月9日(木) 午後1時30分～	
8月	納涼祭	8月1日(木)	
9月	墓 参	9月19日(木) 午後1時30分～	
	敬老の日記念式典	9月26日(木) 午後1時30分～	
	全生園まつり(演芸)	9月下旬～10月18日(金)迄	
10月	合同慰霊祭	10月16日(水) 午後1時30分	
	全生園まつり(センターコーラス)	10月23日(水) 午後1時30分	
11月	全生園まつり	11月1日(金)～11月3日(日)迄	
	第36回ハンセン病コ・メディカル学会	11月8日(金)～11月9日(土)迄	
	焼き芋会	11月20日(水) 午後1時30分	
	遺骨整理	11月27日(水) 午後2時00分	
3月	看護学校卒業式	3月6日(木) 午前10時～	
	墓 参	3月13日(木) 午後1時30分	

2. 主要な視察状況（令和6年度）

来園者	年月日	備考
武見厚生労働大臣	2024年7月3日	大臣官房人事課大臣室大臣秘書官、医政局長、医療経営支援課長、難病対策課長、国立ハンセン病療養所対策室長、政策医療推進官、独立行政法人支援室長補佐、国立ハンセン病療養所対策室長補佐

3. 看護学生実習・施設見学・研修等施設利用許可状況

1. 実習受け入れ状況

1) 国立ハンセン病療養所附属看護学校

	学校名	実習者数	実習名	受け入れ期間	実習場所
2 学年	国立療養所多磨全生園	10名	地域・在宅看護論実習	令和6年8.27～9.12	治療棟 第1センター 第3西センター 一般寮支援室
		10名	統合実習	令和6年11.6～11.21	やすらぎ病棟

2) その他

	学校名	実習者数	実習名	受け入れ期間	実習場所
1	国際医療福祉大学 成田看護学部	4名	看護統合実践	令和6年6.3～6.14	第1センター 第3西センター やすらぎ病棟 一般寮支援室
2	上智大学	7名	基礎看護学領域	令和6年8.20～8.28	第1センター 第3西センター やすらぎ病棟
3	東日本矯正医療センター "准看護師養成所"	各10名	基礎看護実習Ⅰ～Ⅳ	令和6年10.16～10.21 令和6年10.22～10.25 令和7年2.4～2.7 令和7年2.17～2.28	第1センター 第4西センター やすらぎ病棟 1病棟

2. 研修受け入れ状況

1) 国内研修受け入れ状況（講義含む）

	研修名	研修人数	受け入れ期間	施設名
1				

2) 海外研修受け入れ状況 なし

	研修名	研修人数	受け入れ期間	国名	受入機関
1					

3. 研修・見学等、その他施設利用状況

1) 申請数

月	研修・見学等		その他施設利用者	
	件数	人数	件数	人数
4	1	20	0	0
5	4	324	8	241
6	5	255	6	90
7	7	148	4	180
8	4	120	2	35
9	8	216	9	150
10	21	905	13	741
11	11	567	10	272
12	5	213	4	508
1	4	65	2	35
2	7	297	6	371
3	8	196	5	303
合計	85	3,326	69	2,926

総合計件数	総合計人数
154	6,252

2) 申請属性件数

属性	研修・見学等		その他施設利用者	
	件数	人数	件数	人数
NPO			14	205
保育園			9	1,144
企業	2	20		
教職員				
公務員	8	237	9	685
任意団体	17	290	17	375
法曹界				
宗教団体			14	250
小学生	14	913	5	252
中学生	6	344		
高校生	6	331		
大学生、大学院生	9	478		
看護系教育機関	8	241		
労働組合	2	58		
報道機関				
一般市民				
人権啓発団体	7	183		
園職員、学芸員等				
医療機関			1	15
障害者支援施設				
民政委員	6	231		
教育委員会				
P T A				
福祉系教育機関				
医薬系教育機関				
合計	85	3,326	69	2,926

3-1) 研修・見学等利用者内訳

※10名以上の団体のみ掲載

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的	学芸員 対応
1	4月11日	東村山市議会	公務員	20	園内	人権学習のため	×
2	5月16日	八坂小学校	小学生	115	園内	人権学習のため	○
3	5月19日	昭和女子大学人間社会学部初等教育学科	大学生・大学院生	77	園内	人権学習のため	○
4	5月29日	東村山市幸せの会	任意団体	10	園内	人権学習のため	○
5	5月31日	杏林大学医学部医学教育学教室	大学生・大学院生	122	園内	人権学習のため	○
6	6月7日	杏林大学医学部医学教育学教室	大学生・大学院生	122	園内	人権学習のため	○
7	6月11日	秋津小学校	小学生	40	園内	人権学習のため	○
8	6月13日	川崎市管第二地区民生委員児童協議会	民生委員	24	園内	人権学習のため	○
9	6月21日	秋津小学校	小学生	40	園内	人権学習のため	○
10	6月29日	横浜共立学園	高校生	29	園内	人権学習のため	○
11	7月3日	自由の森学園高等学校	高校生	20	園内	人権学習のため	○

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的	学芸員 対応
12	7月9日	多摩東人権擁護委員協議会	人権啓発団体	25	園内	人権学習のため	○
13	7月11日	日本社会事業大学	大学生・大学院生	25	園内	人権学習のため	×
14	7月11日	所沢市民大学1班	任意団体	12	園内	人権学習のため	×
15	7月29日	東村山市立北山小学校	小学生	16	園内	人権学習のため	×
16	7月30日	桔梗十時専修学校	看護系教育機関	30	園内	人権学習のため	×
17	7月31日	東村山市立東村山第三中学校	中学生	20	園内	人権学習のため	×
18	8月4日	野村羊子といっしょにつくる三鷹の会	任意団体	20	園内	人権学習のため	○
19	8月24日	慶応大学医学部リハビリテーション医学教室	大学生・大学院生	60	園内	人権学習のため	○
20	8月27日	羽村市立富士見小学校	小学生	20	園内	人権学習のため	○
21	8月29日	東京都立八王子南特別支援学校	小学生	20	園内	人権学習のため	○
22	9月4日	共立高等看護学院	看護系教育機関	52	園内	人権学習のため	○
23	9月6日	川崎市民劇場なかはら	任意団体	12	園内	人権学習のため	○
24	9月12日	株式会社クボタ	企業	10	園内	人権学習のため	○
25	9月12日	株式会社クボタ	企業	10	園内	人権学習のため	○
26	9月12日	東村山市立回田小学校	小学生	78	園内	人権学習のため	○
27	9月20日	医療生協さいたま生活協同組合	任意団体	24	園内	人権学習のため	○
28	9月23日	日本カトリック部落差別人権委員会	人権啓発団体	15	園内	人権学習のため	○
29	9月25日	新日本婦人の会和光支部ひまわり班	任意団体	15	園内	人権学習のため	○
30	10月1日	医療生協さいたま生活協同組合	任意団体	28	園内	人権学習のため	○
31	10月3日	町田市立忠生中学校	中学生	58	園内	人権学習のため	○
32	10月5日	東京青年司法書士協議会	任意団体	15	園内	人権学習のため	○
33	10月8日	あま市役所	公務員	46	園内	人権学習のため	○
34	10月8日	専門学校日本医科学大学校	看護系教育機関	40	園内	人権学習のため	○
35	10月9日	目黒区民生児童委員協議会北部第2地区	民生委員	20	園内	人権学習のため	○
36	10月11日	都庁衛生局退職者会	任意団体	20	園内	人権学習のため	○
37	10月11日	立川保健所	公務員	10	園内	人権学習のため	○
38	10月16日	東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課	公務員	30	園内	人権学習のため	○
39	10月17日	東久留米市立本村小学校	小学生	58	園内	人権学習のため	○
40	10月17日	我孫子市民生委員児童委員協議会	民生委員	59	園内	人権学習のため	○
41	10月18日	川越市霞ヶ関地区民生児童委員協議会	民生委員	38	園内	人権学習のため	○
42	10月19日	国立ハンセン病資料館	人権啓発団体	15	園内	人権学習のため	○
43	10月23日	川口市立看護専門学校	看護系教育機関	40	園内	人権学習のため	○
44	10月24日	松戸市明第3地区民生委員児童委員協議会	民生委員	30	園内	人権学習のため	○
45	10月24日	法務省矯正研修所	公務員	97	園内	人権学習のため	○
46	10月24日	東村山市立八坂小学校	小学生	128	園内	人権学習のため	○
47	10月25日	人権教育啓発推進センター	人権啓発団体	50	園内	人権学習のため	○
48	10月26日	東村山ふるさと歴史館	公務員	12	園内	人権学習のため	×
49	10月29日	東村山市立化成小学校	小学生	101	園内	人権学習のため	○
50	10月31日	東村山市教育部ふるさと歴史館	公務員	10	園内	人権学習のため	×
51	11月6日	全退教・東京都退職教職員連絡協議会	任意団体	40	園内	人権学習のため	○
52	11月8日	太田人権擁護委員協議会	人権啓発団体	40	園内	人権学習のため	○
53	11月10日	夏潮会	任意団体	20	園内	人権学習のため	○
54	11月14日	至誠会看護専門学校	看護系教育機関	13	園内	人権学習のため	○
55	11月17日	東邦大学理学部教員養成課程	大学生・大学院生	10	園内	人権学習のため	○
56	11月19日	清瀬市立芝山小学校	小学生	56	園内	人権学習のため	○
57	11月20日	法務省矯正研修所	公務員	12	園内	人権学習のため	○
58	11月22日	捜真女学校	高校生	168	園内	人権学習のため	○
59	11月26日	至誠会看護専門学校	看護系教育機関	13	園内	人権学習のため	○
60	11月27日	足立区民生委員協議会	民生委員	60	園内	人権学習のため	○
61	11月29日	西東京市立田無第二中学校	中学生	135	園内	人権学習のため	○

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的	学芸員 対応
62	12月4日	埼玉県立常盤高等学校	高校生	42	園内	人権学習のため	○
63	12月5日	東村山市立野火止小学校	小学生	78	園内	人権学習のため	○
64	12月6日	埼玉県立常盤高等学校	高校生	43	園内	人権学習のため	○
65	12月7日	早稲田大学文化構想学部	大学生・大学院生	40	園内	人権学習のため	○
66	12月15日	科学技術者フォーラム	任意団体	10	園内	人権学習のため	×
67	1月13日	新日本婦人の会板橋支部	任意団体	13	園内	人権学習のため	○
68	1月18日	創価大学経済学部	大学生・大学院生	10	園内	人権学習のため	○
69	1月25日	全労働省労働組合	労働組合	13	園内	人権学習のため	○
70	1月30日	法政大学第二中・高等学校	高校生	29	園内	人権学習のため	○
71	2月7日	古河市同和教育推進協議会	人権啓発団体	20	園内	人権学習のため	○
72	2月10日	日本医労連	労働組合	45	園内	人権学習のため	○
73	2月13日	東京弁護士会	任意団体	15	園内	人権学習のため	○
74	2月20日	北海道教育大学札幌校日本史研究室	大学生・大学院生	12	園内	人権学習のため	○
75	2月26日	勤務医東葛看護専門学校	看護系教育機関	42	園内	人権学習のため	○
76	2月28日	古河市立古河第二小学校	小学生	83	園内	人権学習のため	○
77	2月28日	東村山市立 青葉小学校	小学生	80	園内	人権学習のため	○
78	3月6日	千住介護福祉専門学校	看護系教育機関	11	園内	人権学習のため	○
79	3月7日	中央大学ボランティアセンター	任意団体	11	園内	人権学習のため	○
80	3月13日	東村山市立東村山第一中学校	中学生	80	園内	人権学習のため	○
81	3月15日	日野市ハンセン病問題から学ぶ会	人権啓発団体	18	園内	人権学習のため	○
82	3月19日	獨協中学校	中学生	18	園内	人権学習のため	○
83	3月20日	開智所沢中等教育学校	中学生	33	園内	人権学習のため	○
84	3月23日	横浜西ロータリークラブ	任意団体	15	園内	人権学習のため	○
85	3月28日	エステート一番新和会	任意団体	10	園内	人権学習のため	○

3-2) その他施設利用者内訳

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的	学芸員 対応
1	5月1日~31日	智とゆかいな仲間たち	任意団体	10	全生園テニスコート	テニスコート使用	×
2	5月1日~31日	全生テニス倶楽部	任意団体	20	全生園テニスコート	テニスコート使用	×
3	5月9日	東村山活き活きまちづくり	NPO	10	耕作地他	除草等	×
4	5月19日	全生園聖公会	宗教団体	20	礼拝堂等	礼拝	×
5	5月23日	東村山活き活きまちづくり	NPO	15	山吹舎・耕作地他	除草等	×
6	5月25日	花さき保育園	保育園	70	多磨全生園	自然観察のワークショップ	×
7	5月29日	天理教心治分教会	宗教団体	15	旧全生園学園跡 植木剪定	除草等	×
8	5月29日	花さき保育園	保育園	81	村上梅林	村上梅園での梅もぎ	×
9	6月1日~30日	全生テニス倶楽部	任意団体	20	全生園テニスコート	テニスコート使用	×
10	6月20日	東村山活き活きまちづくり	NPO	15	山吹舎・畑・花壇	除草等	×
11	6月29日	天理教むさしの支部天理教武 神分教会	宗教団体	15	福祉課前の除草作業	除草等	×
12	6月29日	天理教むさしの支部天理教武 神分教会	宗教団体	15	福祉課前の除草作業	除草等	×
13	6月29日	天理教武神分教会	宗教団体	15	全生園	除草等	×
14	6月30日	東村山市企画政策課	公務員	10	野球場	ベースのポイント設置	×
15	7月1日~31日	全生テニス倶楽部	任意団体	15	全生園テニスコート	テニスコート使用	×
16	7月1日~ 9月30日	東村山市	公務員	50	野球場	野球場使用	×
17	7月25日	東村山活き活きまちづくり	NPO	15	山吹舎・畑・花壇	除草等	×

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的	学芸員 対応
18	7月28日～ 8月25日	東村山市青葉地域C	任意団体	100	野球場側	ラジオ体操	×
19	8月1日～31日	全生テニス倶楽部	任意団体	20	全生園テニスコート	テニスコート使用	×
20	8月22日	東村山活き活きまちづくり	NPO	15	山吹舎・畑・花壇	除草等	×
21	9月1日～30日	全生テニス倶楽部	任意団体	15	全生園テニスコート	テニスコート使用	×
22	9月7日	日本聖公会東京教区清瀬聖母 教会	宗教団体	20	納骨堂から 聖公会礼拝堂	礼拝堂でのミサ	×
23	9月17日	東村山活き活きまちづくり	NPO	15	福祉サービス棟・ 中央集会場	除草等	×
24	9月19日	立正佼成会 東村山教会	宗教団体	20	納骨堂	慰霊供養	×
25	9月25日	東村山活き活きまちづくり	NPO	15	福祉サービス棟・ 中央集会場	除草等	×
26	9月26日	東村山活き活きまちづくり	NPO	15	山吹舎・花壇・畑	除草等	×
27	9月29日	天理教むさしの支部	宗教団体	20	成田庭園他	除草等	×
28	9月29日	天理教武神分教会	宗教団体	20	植木剪定 除草作業	除草等	×
29	9月30日	花さき保育園	保育園	10	コミュニティー センター(公会堂)	運動会 雨天時リハーサル準備	×
30	10月1日	花さき保育園	保育園	88	コミュニティー センター(公会堂)	運動会 雨天時リハーサル	×
31	10月1日～ 12月31日	東村山市市民スポーツ課	公務員	50	野球場	野球場使用	×
32	10月1日～31日	全生テニスクラブ	任意団体	20	テニスコート	テニスコート使用	×
33	10月4日	花さき保育園	保育園	10	コミュニティー センター(公会堂)	運動会 雨天時前日準備	×
34	10月5日	花さき保育園	保育園	327	コミュニティー センター(公会堂)	運動会 雨天時本番	×
35	10月6日	東村山市市民スポーツ課	公務員	50	野球場	野球場除草	×
36	10月13日	全生テニスクラブ	任意団体	16	なごみ	テニスコート使用	×
37	10月22日	多摩あおば病院デイケア	医療機関	15	全生園	散策	×
38	10月24日	東村山活き活きまちづくり	NPO	15	山吹舎・畑・花壇等	除草等	×
39	10月25日	大岱小学校	小学生	75	全生園	診療館見学のため園内を通過するのみ	×
40	10月26日	花さき保育園	保育園	35	全生園	自然観察・ワークショップ	×
41	10月29日	天理教武神分教会	宗教団体	20	植木剪定 除草作業	除草等	×
42	10月29日	天理教武神分教会	宗教団体	20	植木剪定 除草作業 伐採作業	除草等	×
43	11月1日～30日	全生テニスクラブ	任意団体	20	全生園テニスコート	テニスコート使用	×
44	11月1日	東村山市立青葉小学校	小学生	30	野球グラウンド付近	秋探し、どんぐり拾い	×
45	11月1日	東村山市立青葉小学校	小学生	31	野球グラウンド付近	秋探し、どんぐり拾い	×
46	11月6日	東村山市立青葉小学校	小学生	32	野球グラウンド付近	秋探し、どんぐり拾い	×
47	11月14日	国立ハンセン病療養所事務長 協議会	任意団体	14	全生園	園内見学(国立ハンセン病療養所事務長協議会臨時総会)	×
48	11月14日	東村山市立萩山小学校	小学生	84	野球場	課外授業	×
49	11月15日	国立ハンセン病療養所事務長 協議会	任意団体	14	全生園会議室	事務会(国立ハンセン病療養所事務長協議会臨時総会)	×
50	11月21日	東村山活き活きまちづくり	NPO	15	山吹舎・畑・花壇等	除草等	×
51	11月30日	天理教むさしの支部	宗教団体	12	成田庭園他園内各所	除草等	×
52	11月30日	天理教武神分教会	宗教団体	20	植木剪定 除草作業 伐採作業	除草等	×
53	12月1日～31日	全生テニスクラブ	任意団体	20	全生園テニスコート	テニスコート使用	×
54	12月7日	花さき保育園	保育園	455	全生園	ウォークラリー	×
55	12月13日	日本聖公会各教区人権問題担 当者会	宗教団体	18	納骨堂から 聖公会礼拝堂	礼拝堂でのミサ	×

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的	学芸員 対応
56	12月19日	東村山活き活きまちづくり	NPO	15	山吹舎・畑・花壇	除草等	×
57	1月1日～31日	全生テニスクラブ	任意団体	20	全生園テニスコート	テニスコート使用	×
58	1月16日	東村山活き活きまちづくり	NPO	15	山吹舎・畑・花壇	除草等	×
59	2月1日～28日	全生テニスクラブ	任意団体	20	全生園テニスコート	テニスコート使用	×
60	2月4日	西東京市 市民活動推進係	公務員	20	全生園	イベント使用	×
61	2月7日	歴史ウォーキング	任意団体	11	全生園	イベント使用	×
62	2月11日	東村山市企画政策課	公務員	300	さくら公園	イベント使用	×
63	2月11日	東村山市経営政策部企画政策課	公務員	5	全生園	イベント使用	×
64	2月20日	東村山活き活きまちづくり	NPO	15	山吹舎・畑・花壇	除草等	×
65	3月1日～31日	全生テニスクラブ	任意団体	20	全生園テニスコート	テニスコート使用	×
66	3月8日	東村山市企画政策課	公務員	100	旧全生園跡 森林浴道他	イベント使用	×
67	3月8日	東村山市企画政策課	公務員	100	野球場・駐車場	イベント使用	×
68	3月13日	東村山活き活きまちづくり	NPO	15	山吹舎・畑・花壇除草	除草等	×
69	3月18日	清瀬上宮保育園	保育園	68	野球場	全生園への遠足と野球場での昼食	×

4. ボランティア受入状況等

	実施日時等	項目(名称)	団体名	人数	主な内容
1	週1回 不定期	陶芸	全生園 陶芸倶楽部	5名	陶芸通じて親睦をはかる
2	週1回 不定期	折り紙	四季の折り紙 の会	2～5名	折り紙通じて親睦をはかる
3	年間を通し、適宜	環境整備	東村山活き生 きまちづくり	10～15名	樹木の剪定、農耕地環境 整備、他
4	年間を通し、適宜	環境整備	天理教 むさしの支部	10～20名	樹木の剪定、除草作業、 清掃作業、他
5	年間を通し、適宜	環境整備	天理教 武神分教会	5名	植木剪定、除草作業、他
6	年間を通し、適宜	環境整備	全生テニスク ラブ	15～20名	テニスコートの除草作業、 清掃作業、他
7					

5. 研究活動、研修参加、倫理審査委員会状況

1. 研究発表

1) 施設内発表 なし

2) 施設外発表

番号	題 名	発表者（所属）	学会名等（場所）	発表年月日
1	入所者に対するサードプレイスを意識した人生サポート活動の実践	小林進一 （看護部）	第36回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会 国立療養所多 磨全生園	令和6年11月8日
2	ハンセン病療養所におけるライフサポートのあり方の検討	汐崎 祐 （医局）	第36回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会 国立療養所多 磨全生園	令和6年11月8日
3	爪ケア外来での統一した専門的な爪ケアができる看護師のためのマニュアルの第2版作成の試み	曾我部千鶴子 （看護部）	第36回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会 国立療養所多 磨全生園	令和6年11月8日
4	長高齢者の臨死期における音楽による不安緩和ケア	吉川裕子 （看護部）	第36回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会 国立療養所多 磨全生園	令和6年11月8日
5	A園の不自由棟で入所者を看取る際の介護者に対する必要な取り組み ～在宅見取り家族支援の先行研究からの考察～	白石綾子 （看護部）	第36回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会 国立療養所多 磨全生園	令和6年11月8日
6	長期臥床状態にあったA氏が自分らしさを取りもどすための介護員による取り組み	柴田純子 （看護部）	第36回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会 国立療養所多 磨全生園	令和6年11月8日
7	過去4年間の委託入院後の帰園時監視培養検査結果の検討	関由貴子 （看護部）	第36回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会 国立療養所多 磨全生園	令和6年11月8日
8	0レベルdインシデントの重要性について ～職員の意識向上をはかる～	金子純樹 （看護部）	第36回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会 国立療養所多 磨全生園	令和6年11月8日
9	ハンセン病療養所の認知症高齢者への歌唱を中心とした個人音楽療法の介入による効果	町田享子 （看護部）	第36回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会 国立療養所多 磨全生園	令和6年11月9日
10	人生の最終段階における医療・ケアについての意思確認 ～Bセンター入居者の思いからの考察～	白石綾子 （看護部）	第36回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会 国立療養所多 磨全生園	令和6年11月9日
11	当園における5類移行後の「新型コロナウイルス感染状況に応じた園内対応指針」	関由貴子 （看護部）	第36回ハンセン病 コ・メディカル学術 集会 国立療養所多 磨全生園	令和6年11月9日

3) 雑誌投稿・著書発刊 なし

2. 研修参加状況

1) 施設内参加状況（看護研究会・病院主催等）

研修会名	研修内容（目的）	研修期間	職種	参加人員
令和6年度 第1回 感染対策研修 「大切な人を守る、全職員の感染対策」	内容 ・園内感染対策の概要 ・手指衛生直接観察法の実際 ・環境ラウンドの報告（行動経済学の視点から） 方法 園内講師による講義の受講または動画視聴、事後課題（要点テスト）	令和6年10月29日	全職員	会場：89名 VTR視聴 ：283名
令和6年度 第2回 感染対策研修 「みんなのインフルエンザ」	内容 ・インフルエンザについての知識 ・園内のインフルエンザ対策 方法 園内講師による講義の受講または動画視聴、事後課題（要点テスト）	令和7年1月15日	全職員	会場：94名 VTR視聴 ：270名
感染対策リンク会主催 感染防止対策研修 「食中毒対策」①	内容 介護現場で起こりやすい食中毒とその原因 方法 e-ラーニング、テスト	令和6年6月11日 ～6月21日	看護部全職員 (看護師・介護員・看護助手)	看護師 ：109名 介護員・ 看護助手 ：90名
感染対策リンク会主催 感染防止対策研修 「食中毒対策」②	内容 ・食中毒予防の3原則 ・調理、保管、配膳時の注意点 方法 園内講師による講義の受講または動画視聴	令和6年7月24日	看護部全職員 (看護師・介護員)	看護師 ：109名 介護員・ 看護助手 ：90名
感染対策リンク会主催 感染防止対策研修 「ノロウイルス感染対策～基礎編～」	内容 ・ノロウイルス感染症の特徴 ・感染拡大防止のポイント 方法 園内講師による講義または各部署での伝達講習の受講	令和6年12月13日 令和7年1月22日	看護部全職員 (看護師・介護員)	看護師 ：119 介護員・ 看護助手 ：90名
感染対策リンク会主催 感染防止対策研修 「ノロウイルス感染対策～実践編～」	内容 ノロウイルス発生時の嘔吐物処理 方法 園内講師による実践講義または各部署での伝達講習の受講	令和6年12月19日	看護部全職員 (看護師・介護員)	看護師 ：119名 介護員・ 看護助手 ：90名
感染管理認定看護師によるミニ勉強会① 「分かる！ゾーニング」	内容 ワゴン使用時の交差感染防止 方法 感染対策リンク会および各部署での講義と演習	令和6年7月18日 (感染対策リンク会) 9月13日 (第3西センター) 9月20日 (やすらぎ病棟、 第1センター)	感染対策リンク会メンバー、 病棟・センター の看護師	感染対策リンク会 ：12名 各部署の勉強会当日勤務者
感染管理認定看護師によるミニ勉強会② 「器材の消毒・保管について」	内容 ・次亜塩素酸Naの取扱い ・消毒後の器材の保管方法 方法 感染対策リンク会および各部署での講義と演習	令和7年2月7日 (一般寮支援室) 2月20日 (感染対策リンク会) 2月21日 (やすらぎ病棟) 2月28日 (第1センター、 第3西センター) 3月14日（1病棟）	感染対策リンク会メンバー、 病棟・センター・治療棟 の看護師・介護員・看護助手	感染対策リンク会 ：12名 各部署の勉強会当日勤務者

2) 施設外参加状況

(1) 厚生労働省・厚生局関係

研修会名	研修内容（目標）	主催	職種	研修期間
令和6年度 副看護師長新任研修	講義及び演習を通じて管理面での知識・技術を高めるとともに、看護管理者としての視野を広げ、管理能力の向上を図る	国立病院機構 関信グループ	副看護師長	令和6年6月17・24日
令和6年度 実習指導者講習会	看護教育における次週の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な次週指導ができるよう必要な知識・技術を修得することにより、実習指導体制の向上と均質化を図る	国立病院機構 関信グループ	看護師	令和6年5月27日～7月29日 令和6年10月7日～11月28日 5月27日～6月21日・10月～11月1日は e-ラーニング
令和6年度 国立ハンセン病療養所 看護管理マネジメント 研修	国立ハンセン病療養所の看護管理者としての役割の再認識および国立ハンセン病療養所の看護管理に必要な知識・スキルを習得し、多職種連携の促進により組織の目標を達成できる	厚生労働省 医政局	看護師長	令和6年7月～9月12日 (DVD視聴180分) 9月30日 (Webにて集合研修)
令和6年度 国立ハンセン病療養所 介護員研修	介護員の役割と責任を再認識し、介護の専門性を発揮しながら多職種との連携を促進し、入所者に対する介護の質を向上させる	厚生労働省 医政局	介護員	令和6年12月5日～6日
令和6年度 医療安全対策研修Ⅱ	医療安全に関する具体的な事例展開を通して制度理解・知識・技術を深め、医療時の発生への対応を習得することで、医療安全管理体制の充実と向上を図る	国立病院機構 関信グループ	看護師長	令和6年7月29日
看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修	良質な看護サービスの提供と効率的な業務運営を目的として看護補助者の業務範囲や教育及び就労環境について理解し、自病院における看護補助者の更なる活用のために必要な看護管理者としての能力を養う	独立行政法人 国立病院機構	看護師長 副看護師長	e-ラーニング 令和6年6月17日～6月28日 令和6年10月1日～10月11日 令和7年1月16日～1月30日 集合 (LIVE配信) 7月30日・11月7日・2月25日
令和6年度認知症ケア研修	認知症患者の理解を深め、患者・家族を支援するために必要な看護実践力の向上を図ると共に地域を含めた患者・家族の介入に携わる多職種チームと協働・連携し中心的役割を果たせる能力を養う。	国立病院機構 関信グループ	副看護師長 看護師	e-ラーニング 令和7年1月9日～23日 集合研修 (Web) 令和7年2月4日
令和6年度 障害者虐待防止・意思 決定支援研修	重症心身障害者及び筋ジストロフィー等神経筋・難病の患者・利用者に対する虐待防止体制の更なる推進を目指した研修とする	国立病院機構 関信グループ	介護長	令和6年9月27日
令和6年度関東信越グループ内看護教員インターンシップ研修	看護学校で行っている看護基礎教育に興味関心をもつ機会とする 看護教員の教育活動の実際を知る機会とする	国立病院機構 関信グループ	看護師	令和6年10月16日～17日

研修会名	研修内容（目標）	主催	職種	研修期間
令和6年度 中堅看護教員・看護師 長研修研修	職場の活性化に向けて、自己の 役割や課題を明確にするととも に看護教員・看護師長としての 資質、能力向上を図ることを目 的とする	国立病院機構 関信グループ	看護師長	令和6年9月5日
令和6年度 看護職員教育担当者研 修	看護職員教育担当者としての役 割を認識し、看護職キャリアパ ス制度推進の基盤となる「看護 職員能力開発プログラム」に基 づく人材育成に必要な能力を養 うことにより、病院における看 護教育体制の一層の充実を図る	国立病院機構 関信グループ	副看護師長	令和6年9月17日～9月18日
令和6年度 「職場におけるハラス メント防止講演会」	ハラスメントのない職場を目指 して裁判例等から考える予防と 対応	人事員関東事 務局	副看護部長 副看護部長	令和6年11月29日
令和6年 院内感染対策研修	院内感染対策に関する基本的な 知識・技術等を習得するととも に、個々の職員の資質向上と関 連部門との連携の強化を図る	国立病院機構 関信グループ	看護師	令和6年5月28日

(2) 個人（自費）にて参加した研修

研修会名	研修内容（目標）	主催	職種	研修期間	参加 人数

3) 研究業績・研修参加状況

1. 学会発表

第36回ハンセン病コ・メディカル学会学術集会（R6.11.8/9 多磨全生園）

- ・高齢者疑似体験を通しての学びと授業効果の検証：金井千絵
- ・看護師養成所2年課程の教員が認識している看護シミュレーション教育の現状と課題：軽部太一
- ・発熱のある患者への与薬の状況設定事例演習で得た学びの分析：山谷なぎさ
- ・看護師養成所2年課程の学生が日常生活援助技術、事例での状況設定演習から得た学びレポート分析
～発熱・悪寒時の援助を通して～：大家枝利
- ・ハンセン病療養所附属看護学校新任看護教員が感じた困難感：市村清香
- ・ハンセン病から学ぶ「生きがい」
～ハンセン病療養所における音楽活動を通して～：松村希・四戸優里

2. 施設外研修

1) 厚生労働省・国立病院機構等

(1) 佐藤陽子・軽部太一・山谷なぎさ・大家枝利・金井千絵・佐藤恵美・市村清香

令和6年NHO関東信越グループ副学校長・教育主事・教員夏期研修会

講演：「レジリエンスを育てる～今の若者世代の理解と支援のヒント～」

講師：土山勇先生（株）マイナビ福岡支社副支社長

(2) 山谷なぎさ

令和6年度 NHO中堅看護教員・看護師長研修

講義・演習「職場の活性化～対話のある職場づくり～」

「対話のある職場づくりのための中堅看護教員・看護師長としての役割」

講師：浦山絵里先生 ひとづくり工房esco代表

(3) 軽部太一

0から知る国立病院機構の魅力

(4) 金井千絵

看護場面の再構成に基づくコミュニケーションスキルの開発

—援助技法としてのプロセスレコードの活用—

講師：森真喜子先生、松浦佳代先生、新田真由美先生 国立看護大学校

2) その他の研修参加状況（自費）

(1) 看護師国家試験対策セミナー（さわ研究所）：軽部太一

(2) 看護実習での効果的な教え方・学生の支え方（メディカ出版）：軽部太一

(3) 学習会のポイントから学生指導シミュレーションまで（NurSHARE）：軽部太一・大家枝利

(4) 教員と臨床指導者が共に考え学ぶ共同学習会—よりよい看護学実習をめざして—(NurSHARE)
：軽部太一、大家枝利

(5) 発達障害傾向のある人を理解し、看護教育に生かす（看護教育研究学会）：大家枝利、佐藤恵美

(6) 授業設計から考えるフィジカルアセスメント教育（メディックメディア）：軽部太一

(7) 看護過程の指導5つのポイント～こうすれば学生の看護過程が変わる?!～(メディックメディア)
：佐藤陽子、軽部太一

(8) 永田先生直伝！実習記録添削強化セミナー（メディックメディア）：佐藤陽子、軽部太一

(9) 日本のDXと展望、そして看護DXの未来（看護系学会等社会保険連合）：佐藤陽子

(10) 看護過程の本質と臨床判断に関する勘違い（メディックメディア）
：佐藤陽子、軽部太一、金井千絵

(11) 114回看護師国家試験振り返り・国試対策の効果を高める模試の活用（メディックメディア）
：市村清香

(12) NANDA-I/NIC/NOCの基本を学ぶ・NNNを事例に展開する（看護診断研究会）：市村清香

(13) 実習指導（臨地実習）における指導者の心構えとコツ（東京都看護系連絡協議会）
：軽部太一、市村清香

<研究授業実施・参加状況>

1) 実施

R6.12.16 軽部太一「臨床看護技術演習」参加者：学外5名、学内5名

2) 参加

・R6.6.14 横浜看護学校 日常生活の援助技術Ⅲ（姿勢と体位、睡眠と休息）：市村清香

・R6.9.12 横浜看護学校 子どもの成長発達に応じた看護：佐藤恵美

・R6.10.11 西埼玉中央病院附属看護学校 臨床看護技術演習：軽部太一

・R6.10.28 高崎看護学校 母性看護学演習：山谷なぎさ

・R6.11.25 栃木医療センター附属看護学校 診療に伴う技術Ⅱ：金井千絵

・R7.1.31 高崎看護学校 基礎看護学実習Ⅰ：軽部太一

<学術集会等への参加>

第18回看護教育研究学会学術集会 R6.10.19 大家枝利・佐藤恵美

<看護教員インターンシップ実施状況>

- 1) R6.10.3~10.4 NHO災害医療センターより1名
- 2) R6.10.16~10.17 国立療養所多磨全生園より1名

4) 令和6年度 園内研修会参加状況 (2024/4/1~2025/3/31)

学会・研修会名	開催日時	開催場所	主催	部門	参加者
第1回 医療安全研修	R6.10.10	第2会議室	医療安全管理室	医療安全	荘司 路、立川康則、西巻奈津子、平本研二
第1回 感染対策研修	R6.10.29	福祉サービスク3階 研修室ABC	園内感染対策委員会	感染対策	荘司 路、立川康則、西巻奈津子
認知症看護認定看護師によるスキル アップ研修	R6.11.18	福祉サービスク3階 研修室ABC	認知症ケアチーム会	認知症	荘司 路、立川康則
第1回 感染対策研修 (動画視聴)	R6.12.9	動画視聴	園内感染対策委員会	感染対策	渡邊孝浩、平本研二
R6年度 看護部伝達講習 (障害者虐待防止・意思決定支援研修)	R6.12.18	福祉サービスク3階 研修室ABC	園内研修会	看護部	荘司 路、渡邊孝浩、西巻奈津子、立川康則
第2回 感染対策研修 「みんなのインフルエンザ」	R7.1.15	福祉サービスク3階 研修室ABC	園内研修会	感染対策	荘司 路、渡邊孝浩、西巻奈津子、立川康則
第2回 感染対策研修 「みんなのインフルエンザ」	R7.2.18	VTR視聴	園内研修会	感染対策	平本研二

5) 令和6年度 園外研修会参加状況 (2024/4/1~2025/3/31)

学会・研修会名	開催日時	開催場所	主催	部門	参加者
MTJ WEB セミナー 2024年度診療報酬改定	3月29日~5月30日	Webセミナー	株式会社じほう	全般	荘司 路、平本研二
大規模災害時の支援人材育成講習会	4月26日	Web研修会	日本臨床衛生検査技師会	全般	荘司 路
令和5年度第3回国臨協関信支部主催研修会	4月27日	Web研修会	国臨協関信支部	採血	荘司 路、平本研二
Aplio Meeting (creating the best team)	5月4日 (3/1~5/6)	Web研修会	キャノンメディカルシステムズ株式会社	生理	立川康則
2024年度 診療報酬改定 (検査室が知っておくポイント)	5月15日 (3/29~5/30)	Webセミナー	株式会社じほう	全般	立川康則
第5回 sekisui-csc 基礎セミナー (採血管取り扱いの基礎知識)	5月30日 (5/20~6/2)	オンデマンド配信	SEKISUI	全般	立川康則
令和5年度第2回国立病院臨床検査技師長協議会 関東信越支部研修会	6月18日	Web研修会	国立病院臨床検査技師長協議会 関東信越支部	統計	荘司 路、平本研二

学会・研修会名	開催日時	開催場所	主催	部門	参加者
令和6年度第1回国臨協関信支部主催研修会 (臨床検査技師のタスク・シフト/シェア)	8月3日	Web開催	国臨協関信支部	全般	荘司 路、平本研二、立川康則
第5回臓臓USエキスパート養成セミナー	9月9日～9月30日	オンデマンド配信	キャノンメディカル システムズ株式会社	生理	立川康則
第84回細胞検査士教育セミナー	8月23日～9月9日	Web開催	日本臨床細胞学会	細胞	平本研二
第52回国臨協関信支部学会	9月7日	国立がん研究セン ター中央病院	国臨協関信支部	全般	荘司 路、平本研二
令和6年度 認定認知症領域検査技師 日臨技指定講習会	9月1日～9月30日	Web開催	日本臨床衛生検査技師会	全般	荘司 路
令和5年度 第3回国立病院臨床検査技師長協 関東信越支部研修会	9月26日	Web研修会	国立病院臨床検査技師長協 議会関東信越支部	全般	荘司 路、平本研二
第56回日本医療検査科学会	10月5日	パシフィコ横浜	日本医療検査科学会	全般	荘司 路、平本研二
第78回国立病院総合医学会	10月18日～10月19日	グランキューブ大阪 (大阪国際会議場)	国立病院機構	全般	荘司 路
関信支部東京地区区 研修会	10月26日～10月27日	NHO 災害医療センター	国臨協関信支部東京地区区	全般	荘司 路、平本研二、立川康則、 西巻奈津子
令和6年度 関甲信支部・首都圏支部医学検査学会 (第60回)	10月26日～10月27日	軽井沢プリンス ホテルウエスト	日本臨床衛生検査技師会	全般	荘司 路
第32回医師・臨床検査技師・薬剤師・看護師のた めの感染症学セミナー	10月29日～10月30日	Web開催	日本臨床微生物学会	微生物	荘司 路
第28回てんかんに関する臨床検査技師研修会	10月1日～10月31日	オンデマンド配信 (YouTube)	国立病院機構西新湊中央病 院てんかんセンター	生理	立川康則
第36回ハンセン病コ・メディカル学術集会	11月8日～11月9日	国立ハンセン病 資料館	国立療養所多磨全生園	全般	荘司 路、平本研二、立川康則、 西巻奈津子
第36回関東甲信越地方会学術集会	10月5・6日 (11/17～11/18)	現地開催 (オンデマンド配信)	日本超音波医学会	生理	立川康則
第63回日本臨床細胞学会秋期大会	11月16日	幕張メッセ 国際会議場	日本臨床細胞学会	細胞	平本研二

学会・研修会名	開催日時	開催場所	主催	部門	参加者
日臨技臨床検査精度管理調査報告会	11月23日	幕張メッセ国際会議場	日本臨床衛生検査技師会	全般	荘司 路、平本研二
第7回 SEKISUI-CSC基礎セミナー	11月18日～ 12月1日	オンデマンド配信	積水メディカル株式会社	検体	平本研二
令和6年度第2回国臨協関信支部主催研修会 (知っておきたい！病理検査の最新事情)	12月9日～1月10日	オンデマンド配信	国臨協関信支部	病理	荘司 路、平本研二
第36回日本臨床微生物学会総会・学術集会	1月24日～1月26日	名古屋国際会議場	日本臨床微生物学会	微生物	荘司 路
2024年度認定臨床微生物検査技師・ 感染制御認定臨床微生物検査技師合同講習会	1月25日	名古屋国際会議場	日本臨床微生物学会	微生物	荘司 路
令和6年度 認定認知症領域検査技師 JSDP技師 講座	2月1日～2月28日	Web開催	日本臨床衛生検査技師会	全般	荘司 路
令和6年度 臨床検査技師実習技能研修2	2月13日～ 2月14日	国立病院機構本部	国立病院機構 関東信越グループ	微生物	荘司 路、平本研二
令和6年度 国臨協関信支部主催症例検討会	2月15日	Web開催	国臨協関信支部	全般	平本研二
2024年度(令和6年度) 都臨技精度管理調査報告 会	2月25日	Web開催	東京都臨床検査技師会	全般	荘司 路、平本研二
令和6年度日本医師会臨床検査精度管理調査報告 会	3月14日	日本医師会館	日本医師会	全般	渡邊孝浩
令和6年度 第1回 国立病院臨床検査技師長協議 会 関東信越支部研修会	3月15日	NHO東京医療セン ター 病棟会議室 ハイブリット開催	国立病院臨床検査技師長協 議会	管理	荘司 路、平本研二
第29回 関東甲信越地区マイクروسキャン研究会	3月30日	ソラシディカンファ レンスセンター ハイブリット形式	バックマン・コールター 株式会社	微生物	荘司 路、平本研二

6) 令和6年度 学会発表 (2024/4/1～2025/3/31)

氏名	部門	発表演題名 (投稿タイトル名)	発表年月日 掲載年月	発表学会名 掲載雑誌名
平本 研二	看護教育・業務・感染	当園で実施したらい菌 (Mycobacterium leprae)染色検査における検出状況	令和6年11月9日	第36回ハンセン病 コ・メデイカル学術集会
望月 規央	看護教育・業務・感染	当園職員のSARS-CoV-2 N蛋白抗体およびS蛋白抗体獲得状況	令和6年11月9日	第36回ハンセン病 コ・メデイカル学術集会
立川 康則	看護教育・業務・感染	認知機能スクリーニング検査キット導入に向けての検討	令和6年11月9日	第36回ハンセン病 コ・メデイカル学術集会
西巻奈津子	看護教育・業務・感染	園内における血糖測定器の検査科一元管理運用について	令和6年11月8日	第36回ハンセン病 コ・メデイカル学術集会

3. 国立療養所多磨全生園ヒトを対象とする医学研究倫理審査委員会状況 (令和6年度)

承認番号	課題名	審査結果	実施期間	代表者
06-01	人生の最終段階における医療・ケアについての意思確認～Bセンサー入居者の思いからの考察～	迅速審査 「承認」	2024年7月26日～2024年11月30日	白石 綾子
06-02	ハンセン病療養所A園の不自由者棟で入居者を看取る際の介護員に対する必要な取り組み～介護員へのアンケート調査からの考察～	迅速審査 「承認」	2024年7月24日～2025年11月30日	白石 綾子
06-03	ハンセン病患者の疫学調査～	迅速審査 「承認」	2024年7月5日～2029年3月31日	木村 真衣
06-04	爪外來での統一した専門的な爪ケアができる看護師のためのマニュアル作成の試み～	迅速審査 「承認」	2024年7月24日～2024年10月31日	曾我部千鶴子
06-05	全国13施設における薬剤科業務の実態調査 (入所者に対するより良い薬物治療の提供に貢献するために)	迅速審査 「承認」	2024年7月22日～2024年10月31日	青山 美穂
06-06	SARS-CoV-2免疫獲得状況に関する検討	迅速審査 「承認」	2024年8月2日～2024年11月1日	望月 規央
06-07	当園で実施したらい菌染色検査結果状況	迅速審査 「承認」	2024年8月2日～2024年11月1日	平本 研二
06-08	認知機能スクリーニング検査キット導入に向けての検討	迅速審査 「承認」	2024年8月2日～2024年11月1日	立川 康則

承認番号	課題名	審査結果	実施期間	代表者
06-09	Aグループ病院附属看護学校の小児看護学実習の実態調査研究	迅速審査「承認」	2024年8月2日～2025年3月31日	佐藤 恵美
06-10	2年課程の看護学生による、地域・在宅看護論実習での学び(仮)	迅速審査「承認」	2024年8月19日～2025年2月28日	金井 千絵
06-11	ハンセン病療養所におけるライフサポートのあり方の検討	迅速審査「承認」	2024年8月20日～2024年11月7日	汐崎 祐
06-12	副看護師長の管理能力の育成 ～承認後の調査から見たこと～	迅速審査「承認」	2024年8月20日～2024年10月1日	高橋 八重子

国立療養所多磨全生園ヒトを対象とする医学研究倫理審査委員会 委員名簿 (R6.4.1)			
職 名	氏 名	備 考	
国立療養所多磨全生園 副院長	岡 慎一	委員長	
国立療養所多磨全生園 総務部長	永田 勝則		
国立療養所多磨全生園 看護部長	梅津 珠子		
国立療養所多磨全生園 医療職(一) 代表	汐崎 祐		
国立療養所多磨全生園 医療職(二) 代表	伊藤 博		
国立療養所多磨全生園 医療職(三) 代表	河野 薫		
国立療養所多磨全生園 行政職(一) 代表	渡邊 隆治		
国立感染症研究所ハンセン病研究センター	阿戸 学		
法務省人権擁護委員	江藤 佳子	規程第4条第1項(1),(2),(3) 委員	
上智大学法学部	岩田 太		
国立療養所多磨全生園 庶務課長	土師 宏之	事務局	

6. 規程の改訂状況（令和6年度）

規程名	年月日	備考（理由等）
公用車による入所者の個別希望送迎業務運行指針	2024年4月1日	新規
入所者の買物用金銭取扱規程	2024年5月1日	監査役変更
防災管理規程	2024年5月1日	改正
事業継続計画(BCP)	2024年5月1日	新規
防犯カメラ運用要領	2024年5月31日	新規
人生サポート委員会規程	2024年6月6日	改正
人生サポート推進室運用規程	2024年6月6日	改正
認知症対策部会規程	2024年6月6日	改正
寮籍部会規程	2024年6月6日	改正
入所者外出要望等調整部会規程	2024年6月6日	新規
園内感染対策指針	2024年6月25日	改正
園内感染対策委員会規程	2024年6月25日	改正
感染管理室設置規程	2024年6月25日	改正
感染対策ラウンドチーム規程	2024年6月25日	旧感染対策チーム（ICT）規程により名称含めた改正
抗菌薬適正使用支援チーム(AST)規程	2024年6月25日	新規
野球場利用規程	2024年7月1日	改正
病床管理委員会規程	2024年7月9日	改正
集音器貸出・購入規約	2024年7月24日	新規
入所者外出要望等運用指針	2024年9月6日	新規
医療安全管理規程	2024年10月9日	改正
医療(二)部会規程	2024年10月15日	新規

規程名	年月日	備 考 (理由等)
認知症・フレイル対策部会規程	2024年10月15日	改正
医療機器整備委員会規程	2024年10月21日	改正
医療機器、医療用備品の購入要求及び管理に関する要領	2024年10月21日	新規
物品管理取扱細則	2024年10月21日	改正
診療情報管理規程	2024年10月21日	改正
診療情報管理室運営規程	2024年11月7日	改正
職員宿舎管理規程	2024年12月25日	新規(宿舎取扱規程は廃止)
防犯カメラ運用要領	2025年1月7日	改正
電子カルテ導入準備部会	2025年2月7日	新規
公印管理規程	2025年2月26日	改正
公用車による入所者の個別希望送迎業務運行指針	2025年3月12日	改正

Ⅲ 統計資料

1. 職員定員・現員、永年勤続授賞者等

(1) 定員内職員

各年度4月1日現在

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員
指定	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
行(一)	18	18	18	18	22	22	22	21	22	22	22	27
行(二)	102	101	102	100	101	99	98	95	96	97	94	91
医(一)	23	15	23	15	23	16	23	15	23	16	23	18
医(二)	30	27	28	27	27	27	27	26	27	23	27	24
医(三)	153	144	145	136	140	133	137	130	133	120	129	122
福祉	5	3	5	4	5	4	5	4	5	3	5	4
教(二)	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
計	339	316	329	308	326	309	320	299	314	289	308	294

(2) 賃金職員・期間業務職員

	令和元年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	定員	現員	現員	現員	現員	現員	現員
行(一)	7	7	7	9	7	8	11
行(二)	68	29	24	17	16	16	14
医(一)							
医(二)							
医(三)							
福祉	4	4	4	4	4	4	4
計	79	40	35	30	27	28	29

(3) 令和6年度叙勲授賞者

氏名	在籍時職名	在職期間	叙勲関係	備考
		対象者なし		

② 臨時の健康診断

項目	健康診断の受診人員、所要経費等										指導区分及び事後措置					
	対象者数 人	受診 実人員 人	精密検査 対象者数 人	精密検査 実施数 人	経過観察 実施数 人	職 厚生経費 円	共済・その他 経費 円	個人負担 経費 円	指導区分(医療の面)		勤務上の措置			就業 禁止 人		
									要医療 人	要観察 人	休暇又は休職 人	勤務の軽減かつ時 間外勤務等の制限 人	時間外勤務 等の制限 人		就 業 禁 止 人	
第21条関係(1)~(8)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子宮頸がん検診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
乳がん検診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
情報機器健診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨時 の健康 診断																
採用時の健康診断	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非常勤職員一般定期健康診断	47	44	3	0	0	374,884	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上記以外の非常勤	(3)	(3)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
総合的な健康診断	363	31	0	0	0	0	1,341,865	1,369,765	0	0	0	0	0	0	0	0
非常勤	(50)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(74,950)	(74,950)								
心理的な負担の 程度を把握する ための検査	363	217	41	0	0	210,276	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非常勤	(50)	(37)	(4)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)

保健指導の実施状況

4項目有所見者数	0人
精密検査実施数	0人
保健指導実施数	0人

2. 経理関係

(1) 歳入・歳出決算額

歳入科目	単位：千円
雑収入	19,139
国有財産収入	3,578
諸収入	15,561
歳出科目	単位：千円
国立八幡セン療養所	3,731,501
職員基本給	1,362,152
職員諸手当	654,776
超過勤務手当	102,652
非常勤職員手当	0
短時間職員給与	49,305
児童手当	12,740
施設施工旅費	87
施設施工庁費	113,286
施設整備費	254,556
諸謝金	17,600
入所者作業謝金	1,224
入所者給与金	29,834
職員旅費	2,162
研修旅費	0
外国旅費	0
委員等旅費	97
生徒旅費	162
入所者転送等旅費	0
庁費	24,372
情報処理業務庁費	0
入所者療養諸費	857,998
受託研究費	0
医療機器整備費	63,602
医薬品等購入費	101,153
通信専用料	0
各所修繕	4,927
入所者食糧費	78,499
自動車重量税	317

(2) 医療機器整備状況

品名	規格・型式	単位：千円
全自動遺伝子解析装置	バックマン・コールター (株) GENEXPERT GX-XVI	9,982
一般撮影画像処理ユニット	富士フイルムメディカル (株) Console Advance	3,355
血液ガスシステム	ラジオメーター (株) ABL9	1,430
自動採血管準備装置	(株) テクノメデイカ BC-ROBO-900	7,579
全自動免疫分析装置	ロシユ・ダイアグノスティックス (株) コバS,pure402	5,225
全自動細菌検査システム	バックマン・コールター (株) DXM1040マイクروسキャンWalkAway	12,155
生化学自動分析装置	日本電子 (株) JCA-BM6010G	12,650
研究用生物顕微鏡	(株) ニコン エクリプス Ni-L	2,750
超音波画像診断装置 (コンベックスプローブ)	富士フイルムメディカル (株) Transducer C60xf	868
安全キャビネット	(株) 日立産機システム SCV-1609ECIIA2	2,089
睡眠時評価装置セット	(株) ファリップスジャパン ワオッチパット300	737
心電計	日本光電工業 (株) ECG-2550	1,617
放射線画像遠隔読影システム	(株) エスファイル EsPACS	579
薬用冷蔵ショーケース (2台)	PHC株式会社 MPR-S500H-PJ	1,276
オーディオメータ	東日本リオン (株) AA-K1A	566

(3) 施設整備状況

工 事 名	単位：千円
第1センター等GHP更新工事	90,200
非常用電源切替装置更新工事	64,460
公会堂空調設備更新工事	39,600
宮縄作業場外4棟解体工事	5,500
支障木50本伐採作業	4,290

3. 入所者関係

(1) 令和元年度～6年度 年度別入所者数

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
年度末入所者数 (人)	66	80	57	71	49	68	44	61	37	58	34	52
	計	146	計	128	計	117	計	105	計	95	計	86
年度末平均年齢 (歳)	84.7	88.2	84.9	88.5	85.2	89.0	85.9	89.2	86.2	89.9	86.5	90.2
	計	86.6	計	86.9	計	87.4	計	87.8	計	88.5	計	88.7
再入所者数 (人)	3	2	8	3	6	1	2	1	1	1	1	0
	計	5	計	11	計	7	計	3	計	2	計	1
退所者数 (人)	9	7	17	12	15	4	10	8	8	4	4	6
	計	16	計	29	計	19	計	18	計	12	計	10
内	死亡者数 (人)	7	10	10	4	10	6	6	7	4	3	6
	退所者・社会復帰者数 (人)	2	2	7	3	5	0	2	1	0	1	0
訳	退所者数 (人)	4	10	14	5	14	3	12	11	1	1	1
	転退所者数 (人)	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0
	計	0	計	0	計	0	計	3	計	0	計	0

(2) 月別推移状況

年月	区分	繰越入所者数	転入再入所者数	転退所者数	死亡者数	月末入所者数	延入所者数	平均入所者数
令和6年.	4	95	1	1	1	94	2,861	95.4
	5	94	0	0	2	92	2,852	92.0
	6	92	0	0	0	92	2,760	92.0
	7	92	0	0	1	91	2,825	91.1
	8	91	0	0	0	91	2,821	91.0
	9	91	0	0	2	89	2,798	93.3
	10	89	0	0	0	89	2,759	89.0
	11	89	0	0	1	88	2,650	88.3
	12	88	0	0	0	88	2,728	88.0
令和7年.	1	88	0	0	0	88	2,728	88.0
	2	88	0	0	0	88	2,464	85.0
	3	88	0	0	2	86	2,690	86.8
	計		1	1	9	1,076	32,936	90.2

(3) 年齢別人数

(年度末現在)

区分	男	女	計	構成比
70～74歳	2	0	2	2.3%
75～79歳	6	1	7	8.1%
80～84歳	2	10	12	14.0%
85～89歳	10	10	20	23.3%
90～94歳	10	24	34	39.5%
95～99歳	3	3	6	7.0%
100歳以上	1	4	5	5.8%
合計	34	52	86	100.0%

(4) 在所期間別人数調

(年度末現在)

区分	男	女	計	構成比
5年未満	3	2	5	5.8%
5～10年	4	3	7	8.1%
11～15年	2	1	3	3.5%
16～20年	0	0	0	0.0%
21～25年	1	2	3	3.5%
26～30年	0	2	2	2.3%
31～35年	3	4	7	8.1%
36～40年	1	7	8	9.3%
41～45年	2	1	3	3.5%
46～50年	1	2	3	3.5%
51～55年	3	4	7	8.1%
56～60年	2	8	10	11.6%
61～65年	1	1	2	2.3%
66年以上	11	15	26	30.2%
計	34	52	86	100.0%

(5) 開園〔1909年〕以来年齢別死亡者数調

(年度末現在)

性別	年齢	0～9	10～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59
男		13	75	205	281	357	348	287	224	196	175
女		8	37	58	74	78	90	73	70	66	70
計		21	112	263	355	435	438	360	294	262	245
性別	年齢	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	不詳	計
男		154	165	151	141	128	120	103	3	9	3,135
女		67	51	74	60	77	83	106	14	6	1,162
計		221	216	225	201	205	203	209	17	15	4,297

(6) 月別寮籍別入所者数

(月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1病棟	3	4	6	6	6	6	5	8	8	7	7	4
やすらぎ病棟	9	9	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10
第1センター	30	29	29	28	28	26	26	25	26	27	26	25
第3西センター	27	23	22	22	22	22	24	21	20	20	21	23
一般寮	25	27	26	25	25	25	24	24	24	24	24	24
合計	94	92	92	91	91	89	89	88	88	88	88	86

(7) 疾病別死亡患者数統計表 (全科)

【全科】

集計期間：平成31年4月1日～令和7年3月31日

ICD10コード	疾病名	死亡者数					
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
C20	直腸癌						
C61	前立腺癌						
C169	胃癌						
C189	大腸癌						
C220	肝臓癌		2	1			
C221	胆管細胞癌		1		1		
C259	膵臓癌			2			1
C349	肺癌	1			1	1	
C549	子宮体癌						
C859	悪性リンパ腫						
D046	右上腕ボーエン病						
D374	大腸腫瘍						
D376	肝腫瘍						
D383	縦隔腫瘍						
D432	脳腫瘍						
G595	頸髄症						
G919	硬膜下水腫						
I219	急性心筋梗塞						
I255	心筋虚血	1					
I49	その他不整脈			2			
I500	うっ血性心不全		1				
I509	心不全		4	2	1	2	
I619	脳出血					1	
I635	脳幹梗塞						
I639	脳梗塞			1			
I71	大動脈瘤及び解離			1			
J189	肺炎	6	2		2	3	1
J810	肺水腫		1				
J849	間質性肺炎						
J9609	急性呼吸不全	1					
K567	腸閉塞		1	1			
K650	急性腹膜炎		1				
K810	胆嚢炎		1				
K922	消化管出血			1	1	1	
N178	急性腎不全	1	1				
N189	慢性腎不全		1				
R54	老衰	2	1	3	6	2	7
R688	多臓器不全		1				
R99	診断不明確		1			1	

(8) 委託診療件数 (施設別・入院・外来別)

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		総計		
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院
NHO 東京病院	0	5	12	4	7	3	2	3	0	4	0	1	0	1	0	2	16	5	0	16	0	13	11	1	48	58	
NHO 村山医療センター	0	1	0	2	0	3	0	1	0	2	5	1	4	2	17	0	9	0	2	2	19	1	5	2	61	17	
NHO 埼玉病院	0	0	0	1	0	1	0	0	6	1	0	0	0	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	1	6	10	
公立昭和病院	0	1	0	1	0	0	7	0	2	0	1	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	1	3	0	10	10	
杏林大学病院	0	2	0	1	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	1	0	11	
多摩北部医療センター	1	4	0	6	0	5	1	2	0	2	0	2	5	4	25	5	0	4	0	4	0	3	0	3	32	44	
複十字病院	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
新山手病院	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	
武蔵村山病院	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
東京白十字病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	
秋津眼科医院	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	4	
神原記念病院	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	1	3	1	8	1	0	1	15	6	
杏林大学付属杉並病院	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	4	
武蔵野赤十字病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	6	0	11	0	
防衛医科大学校病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	1	0	3	0	1	4	7	
永仁会シーズクリニック	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
東京都立心身障害者 口腔保健センター	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	6
久米川病院	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	
計	1	15	12	17	7	18	10	7	6	15	5	6	9	11	42	16	34	17	9	29	27	24	25	15	187	190	

*延べ件数 (件)

(9) 平成27年度から令和6年度 医療社会事業（ソーシャルワーク）統計

① 相談件数

年度	入所者	外来
平成27年度	3,307	322
平成28年度	3,074	325
平成29年度	2,676	316
平成30年度	2,322	291
令和元年度	2,222	280
令和2年度	1,998	135
令和3年度	1,749	140
令和4年度	1,552	103
令和5年度	1,478	114
令和6年度	1,292	88
計	21,670	2,114

② 援助内容

年度	心理社会的 問題援助	退院援助	受診受療援助	経済的問題	社会復帰援助
平成27年度	2,263	0	866	1,960	0
平成28年度	2,109	0	86	1,823	0
平成29年度	1,889	0	739	1,721	0
平成30年度	1,672	0	706	1,499	2
令和元年度	1,650	0	720	1,450	1
令和2年度	1,468	0	654	1,295	0
令和3年度	1,173	0	586	1,030	0
令和4年度	1,045	0	524	887	0
令和5年度	998	0	476	967	0
令和6年度	876	0	423	932	0
計	15,143	0	5,780	13,564	3

③ 援助方法

年度	面談	電話・書信 での相談	電話等での 調整収集提供	協議・ カンファレンス	記録文書	訪問
平成27年度	2,588	967	990	1,722	1,910	9
平成28年度	2,314	1,172	1,140	1,583	2,045	9
平成29年度	2,116	1,086	1,113	1,331	1,826	6
平成30年度	1,716	956	947	1,243	1,663	6
令和元年度	1,645	1,004	1,035	1,232	1,644	3
令和2年度	1,535	992	974	1,111	1,488	2
令和3年度	1,157	841	749	907	1,282	1
令和4年度	1,013	760	681	848	1,154	0
令和5年度	899	689	701	776	1,082	1
令和6年度	888	599	598	760	1,001	2
計	15,871	9,066	8,928	11,513	15,095	39

④ 個別外援助

年度	院内カンファ レンス・会議	文書・資料 作成・整備	教育
平成27年度	20	28	6
平成28年度	27	24	6
平成29年度	27	19	8
平成30年度	40	15	6
令和元年度	28	12	6
令和2年度	24	9	0
令和3年度	23	5	0
令和4年度	29	4	0
令和5年度	32	4	0
令和6年度	62	4	0
計	312	124	32

4. 治療棟診療科受診者数

(単位：人)
 (上段：延べ人数 下段：1日平均人数)

診療科/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
内科	237	216	225	213	165	155	186	176	147	192	146	143	2,201
	11.3	10.3	11.3	9.7	7.9	8.2	8.5	8.8	7.4	9.6	8.1	7.2	9.0
精神科	66	56	55	60	35	46	50	39	22	18	37	44	528
	3.1	2.7	2.8	2.7	1.7	2.4	2.3	2.0	1.1	0.9	2.1	2.2	2.2
リウマチ科	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4	0	0	8
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
耳鼻科	215	208	197	216	224	206	219	173	187	246	203	185	2,479
	10.2	9.9	9.9	9.8	10.7	10.8	10.0	8.7	9.4	12.3	11.3	9.3	10.2
皮膚科	322	349	286	275	231	255	275	216	277	255	250	256	3,247
	15.3	16.6	14.3	12.5	11.0	13.4	12.5	10.8	13.9	12.8	13.9	12.8	13.3
眼科	82	98	113	109	94	89	111	70	102	82	74	94	1,118
	3.9	4.7	5.7	5.0	4.5	4.7	5.0	3.5	5.1	4.1	4.1	4.7	4.6
外科	24	31	26	29	26	18	18	20	26	14	13	15	260
	1.1	1.5	1.3	1.3	1.2	0.9	0.8	1.0	1.3	0.7	0.7	0.8	1.1
整形外科	108	117	91	115	109	61	112	85	104	108	98	86	1,194
	5.1	5.6	4.6	5.2	5.2	3.2	5.1	4.3	5.2	5.4	5.4	4.3	4.9
泌尿器科	12	18	13	12	21	13	0	13	17	21	7	13	160
	0.6	0.9	0.7	0.5	1.0	0.7	0.0	0.7	0.9	1.1	0.4	0.7	0.7
リハビリ科	110	90	89	125	100	93	123	89	112	114	92	87	1,224
	5.2	4.3	4.5	5.7	4.8	4.9	5.6	4.5	5.6	5.7	5.1	4.4	5.0
歯科	184	174	163	184	147	171	210	177	0	169	169	172	1,920
	8.8	8.3	8.2	8.4	7.0	9.0	9.5	8.9	0.0	8.5	9.4	8.6	7.9
計	1,360	1,357	1,258	1,338	1,152	1,107	1,304	1,062	994	1,223	1,089	1,095	14,339
平均計	64.8	64.6	62.9	60.8	54.9	58.3	59.3	53.1	49.7	61.2	60.5	54.8	58.8

5. 診療統計関係

(1) 薬剤に関する概況

① 処方せん発行枚数および調剤回数等

区分	処方せん発行枚数	調剤回数	延べ剤数
内用剤	10,810	14,901	304,755
外用剤		5,945	5,945
注射剤	1,280	1,769	2,088
計	12,090	22,615	312,788

② 医薬品消費額

区分	消費額 (単位：円)
内用剤	10,995,079
外用剤	5,465,870
注射剤	6,588,166
計	23,049,115

③ 製剤

区分	外用液剤 (滅菌)	外用液剤 (非滅菌)	外用固形剤 (非滅菌)	内用剤 (非滅菌)	注射剤 (IVH)	合 計
製剤種類	0	1	4	4	0	9
製剤回数	0	50	28	19	0	97

(2) 臨床検査に関する概況

① 臨床検査業務統計表

施設名：国立療養所多磨全生園

2024年度

		区分	院内検査件数				外部委託 件数 (別掲)	
			入院	外来	請求外件数	総件数		
件 数 統 計	合計	1~8	7151	15939	12644	35734	633	
	尿・便等検査	1A、1B	161	445	1084	1690	0	
	髄液・精液等	1C、1Z	0	0	0	0	10	
	血液学的検査	2A~2C・2Z	618	1217	1108	2943	22	
	生化学的検査	3A~3M・3Z	5465	11371	7726	24562	223	
	内分泌学的検査	4A~4H・4Z	97	286	0	383	29	
	免疫学的検査	5A~5K	538	2239	1038	3815	231	
	微生物学的検査	6A~6C・6Z	272	381	1688	2341	92	
	病理組織検査	7B・7C・7D	0	0	0	0	0	
	細胞診検査	7A	0	0	0	0	26	
	機能検査	8A	0	0	0	0	0	
	染色体検査	8B	0	0	0	0	0	
	遺伝子検査	8C・8Z・7Z	0	0	0	0	0	
	生 理 機 能 検 査	合計	9	臨床検査技師実施件数				技師外実施 件数 (別掲)
			入院	外来	請求外件数	総件数		
			51	157	311	519	1391	21
心電図検査等		9A	29	125	300	454	0	16
脳波検査等		9B	3	4	0	7	0	0
呼吸機能検査等		9C	0	0	0	0	0	0
前庭・聴力機能検査等		9D	0	0	0	0	133	5
眼科関連機能検査等		9E	0	0	0	0	1117	0
超音波検査等		9F	19	28	11	58	79	0
その他		9I・9G・9Z	0	0	0	0	62	0
穿刺・採取料等		9J	289	1017	101	1407	0	0
			総数	計上内容等				
MRI件数			0	臨床検査技師が実施したMRI件数				
内視鏡件数			0	臨床検査技師が介助した件数				
病理解剖件数		7Z	0	脳解剖を含む病理解剖数				
		一部のみ	0	脳解剖を含まないまたは脳解剖のみの病理解剖数 ただし屍検は含まない				
輸血管理部門の取扱い状況			*****					
在庫数		製剤数	0	在庫した血液製剤バッグ数				
出庫数		製剤数	0	輸血管理室から出庫した血液製剤バッグ数				
輸血済み血液製剤数		製剤数	0	輸血が実施された血液製剤バッグ数				
血液製剤廃棄率		%	0	自己血を除く血液製剤廃棄率 (年度通算)				
病理組織ブロック数		個	0	病理解剖を除くブロック数				
免疫染色枚数 (病理)		枚	12	のべ染色枚数 (組織および細胞)				
特殊染色枚数 (病理)		枚	34	のべ染色枚数 (組織および細胞)				
医療機器保守点検件数		件数	277	検査部門内外の医療機器点検件数				
各種チーム医療連携業務		件数	112	チーム医療連携業務の件数およびタスク・シフト/シェア業務の時間数				
各種指導・教室等実施状況		件数	0	DM教室、新人職員または臨地実習などのオリエンテーション				
治験取扱い患者人数		患者数	0	採血、生理機能検査、検体前処理等の回数に関係なく1患者1件				
臨床研究取扱い患者人数		患者数	0	院内の倫理委員会で承認された研究に関する扱い患者数				
実習・研修等受入れ状況		単位	0	計算式=受け入れ日数 (1日を8時間として) × 人数				
			入院	外来	総件数	計上内容等		
ホルター心電図等解析件数		件数	0	1	1	ホルターECG・血圧計、PSG、SASなどの解析件数		
超音波検査等所見記載件数		件数	19	28	47	計測、解析や超音波検査や脳波検査などの所見を記載した件数		
小児・重心・筋ジス・精神患者検査件数		患者数	0	0	0	小児(14歳以下)、重心・筋ジス・精神患者を検査した件数(項目限定)		
検査説明・相談件数		件数	0	0	0	説明あるいは相談に5分以上を要した件数		
鼻腔ぬぐい液等検体採取件数		件数	79	856	935	臨床検査技師が採取した件数		
採血管準備患者数		患者数	545	163	708	検査部門で採血管準備した患者数(職員健診分は除く)		
静脈採血患者数		患者数	0	163	163	検査技師が静脈採血した患者数(職員健診や接触者健診などは除く)		

医事報告用件数
診療件数 + 請求外件数
39,684

② 外部精度管理参加状況

メーカー名/事業名	部門	実施日	参加項目	報告日	評価	修了書
2024年度 第17回 コレステラストコントロールサーベイ	生化	2024/ 5/19	HDL, LDL, CHO, TG	2024/8/6	4項目±2SD内	なし
2024年度 ビトロス サーベイ	生化・免疫	2024/5/24	VITROS全項目（生化27項目、 腫瘍マーカー5項目、甲状腺3 項目、感染症3項目、HbA1c)	2024/ 8/5	評価A (68/76) 評価B (8/76)	有
2024年度 東ソーHbA1c コントロールサーベイ	生化	2024/5/24	HbA1c	2024/6/7	2濃度±1SD以内	なし
2024年度『日臨技臨床検査精度管理調査』	生化・免疫・ 血液・一般・ 細菌・生理・ 輸血・ POCT	2024/6/5	臨床化学・免疫血清・血液・一般・ 微生物・輸血・生理・POCT	2024/9/17	評価A+B(202/203) 評価D(1/203)	有
2024年 イムノアッセイTMJ-ILC (BIO-RAD)	免疫	2024/7/19	AFF, CA19-9, CEA, PSA, β2MG, フェリチン, TSH, Free-T3, Free-T4	2024/8/20	全項目±2SD以内	なし
2024年度 Sysmex Hemostasis サーベイ	血液	2024/8/7	P-FDP・D-D	2024/9/27	評価A (4/4)	なし
令和6年度 (第58回)『日本医師会精度管理調査』	生化・免疫・ 血液・一般	2024/9/7	臨床化学・免疫血清・血液・ 一般	2025/2/17	96.4点	有
2024年度 第27回 EQCS URO サーベイ	一般	2024/9/19	尿一般12項目	2024/11/5	最頻値の±1ランク 以内	なし
2024年度 第58回『都臨技精度管理調査』	生化学・ 血液・輸血	2024/10/23	臨床化学・血液・輸血	2025/2/25	評価A (94/94)	有
マイクロスキャン研究会主催 『第29回菌株サーベイ』	微生物	2024/11/12	微生物	2025/2/27	良好	なし

③ 研究検査科令和6年度認定資格取得者状況

認 定 資 格	認 定 機 関	取得者
有機溶剤作業主任者	社会法人 労働基準協会連合会	平本研二
特定化学物質作業主任者	社会法人 労働基準協会連合会	平本研二
緊急臨床検査士	日本臨床検査同学院	平本研二
二級臨床検査士：病理学	日本臨床検査同学院	平本研二
二級臨床検査士：血液学	日本臨床検査同学院	望月規央
二級臨床検査士：微生物学 (寄生虫含む)	日本臨床検査同学院	荘司 路 望月規央
日本糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構	西巻奈津子
超音波検査士（消化器領域）	公益社団法人日本超音波医学会	渡邊孝浩 立川康則
超音波検査士（循環器領域）	公益社団法人日本超音波医学会	立川康則
超音波検査士（体表臓器領域）	公益社団法人日本超音波医学会	立川康則
第2種ME技術者	公益社団法人日本生体医工学会	立川康則
認定臨床微生物検査技師	認定臨床微生物検査技師制度協議会 (7団体)	荘司 路 望月規央
感染制御認定臨床微生物検査技師 (ICMT)	ICMT制度協議会（7団体）	荘司 路 望月規央
感染制御スタッフ（ICS）	四病院団体協議会	望月規央
細胞検査士	日本臨床細胞学会	平本研二
国際細胞検査士	日本臨床細胞学会	平本研二

(3) リハビリテーション科に関する概況

① 実施件数（PT・OT・ST 部門別）

理学療法部門

(件)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
理学療法		857	836	809	817	813	775	897	764	709	785	712	694	789
物理療法 (ホットパック)		157	150	140	135	118	129	151	142	107	111	115	122	131
物理療法 (その他) ※1		13	13	11	7	17	12	11	12	5	13	7	6	11
ベッドサイド		84	113	104	122	102	97	135	119	151	140	92	79	112
家屋評価		3	6	1	5	3	1	6	3	7	7	5	5	4
カンファレンス※2		7	4	10	6	4	4	9	15	7	6	8	4	7

※1：その他とは、スパーライザー、牽引をさす

※2：病棟、センターで実施される症例カンファレンス、デスカンファレンスをさす

作業療法部門

(件)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
作業療法 (棒体操除く)		252	276	265	283	252	213	292	258	280	279	260	248	263
棒体操 ※3		2	1	1	1	1	3	4	4	3	3	2	1	2
いきいき リハ (参加人数)		0	0	8	0	6	5	7	9	8	0	0	5	4
		1	6	3	10	6	2	2	7	3	4	5	0	4
認知機能 ※4		0	2	1	2	2	0	1	1	0	0	0	0	1
		2	0	0	4	5	3	2	3	1	0	0	1	2
合計 (棒体操含む) ※3		254	277	266	284	253	216	296	262	283	282	262	249	265

※3：作業療法部門における棒体操件数は対象者最大2名の小集団のため合計件数を含む

※4：認知機能検査はOT 2名・ST 1名の計3名のローテーションで実施しているため合算した件数

言語聴覚療法部門

(件)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
言語聴覚療法		144	136	132	158	120	121	144	134	137	140	120	131	135
嚥下機能検診		0	0	0	0	0	0	0	10	11	0	0	0	2

② 新規処方患者件数 (PT・OT・ST 部門別)

(件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
理学療法	2	0	4	3	1	2	1	3	2	4	2	2	2.2
作業療法	2	1	3	2	0	1	1	1	3	3	3	2	1.8
言語聴覚療法	2	0	2	0	0	0	1	0	2	2	1	0	0.8

新患件数	※	3.83件/月
処方件数	※	10.67件/月
実働日数	※	20.33日/月

※：PT, OT, ST部門の平均値

③ 患者所属別 実施者数

(人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
第1病棟	94	87	69	176	140	98	105	145	191	168	165	121	130
やすらぎ病棟	141	137	151	163	160	169	198	169	144	179	161	160	161
第1センター	439	475	469	438	427	394	466	396	394	433	369	399	425
第3西センター	327	380	362	343	340	318	417	344	300	319	291	309	338
一般寮	187	198	178	165	143	142	176	127	120	129	129	107	150
外来	19	13	14	8	6	9	7	2	2	2	1	1	7
第二共済	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1,207	1,290	1,243	1,293	1,216	1,130	1,369	1,183	1,151	1,230	1,116	1,097	1,210

④ 実施件数 (PO 部門)

(件)

区分	年度	令和5年度			令和6年度		
		新規	更新	修理	新規	更新	修理
義肢		0	2	0	0	0	0
装具		51	27	12	47	23	12
自助具			53			35	
その他	※1		71			83	
合計			216			200	
調整等	※2		183			177	

※1：家屋改修、褥瘡予防関連、車椅子・歩行器改良など

※2：処方以外に細かな調整や修理試作等が増加しているため計上した

(4) 放射線科に関する概況

① 撮影機器別件数一覧表（入所者のみ）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一般撮影	1,051	1,053	826	808	752
透視撮影	1	11	1	2	10
CT撮影	354	343	296	315	284
移動撮影	48	67	70	63	61
乳腺撮影	0	0	0	0	0
歯科撮影	100	60	50	56	25
骨密度測定	150	165	166	160	135
合 計	1,704	1,699	1,409	1,404	1,267

② 外部委託読影件数（入所者のみ）

検査項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入所者CT検査	245	205	207
入所者胸部検診	105	87	89
合 計	350	292	296

③ 放射線画像入出力数（入所者のみ）

*	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
園内画像出力	18	23	22	16	33
園外画像取込	21	36	31	24	29

(5) 栄養管理室に関する概況

① 年間入所者数

区 分		入所者数	分類	比率 (%)	
一	般 食	22,617	A	68.7	A/G
特 別 食	加 算 食	3,862	B	11.7	B/G
	非 加 算 食	6,053	C	18.4	C/G
	特 別 食 小 計	9,915	D	30.1	D/G
喫 食 入 所 者 数 小 計		32,532	E	98.8	E/G
欠 食 ・ 外 泊		404	F	1.2	F/G
総 合 計		32,936	G	100.0	

② 年間入所者食数

区 分		患者食数	分類	比率 (%)	
一	般 食	67,658	A	69.1	A/G
特 別 食	加 算 食	11,564	B	11.8	B/G
	非 加 算 食	18,106	C	18.5	C/G
	特 別 食 小 計	29,670	D	30.3	D/G
入 所 者 食 数 小 計		97,328	E	99.4	E/G
禁 食		574	F	0.6	F/G
総 合 計		97,902	G	100.0	

③ 行事食、選択食年間実施数

区 分	実 施 数
行 事 食 実 施 回 数	39 回
選 択 食 実 施 回 数	89 回
選 択 食 実 施 人 数	4,225 人

④ 栄養食事指導、病棟訪問年間実施数

区 分	合計実施数
個人栄養食事指導件数	2 件
病棟訪問実施人数	45 人

⑤ チーム医療カンファレンス年間実施数

区 分	実 施 数
褥 瘡 カ ン フ ァ レ ン ス	11 回
病 棟 カ ン フ ァ レ ン ス	12 回
N S T カ ン フ ァ レ ン ス	13 回
認知症・ライフサポートカンファレンス等	44 回

6. 医療事故分析報告

(1) 内容別件数

内容	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4	レベル5	合計
1 薬 剤	106	87	37	1	0	0	0	231
【注 射】インシュリン関連	3	2	4	0	0	0	0	9
針外筒・後片付け	2	0	0	0	0	0	0	2
禁忌薬	0	0	0	0	0	0	0	0
上位3項目以外	3	6	4	1	0	0	0	14
【内 服】過少与薬	15	20	13	0	0	0	0	48
服薬準備・管理	20	12	0	0	0	0	0	32
処方内容・期間等	15	1	2	0	0	0	0	18
上位3項目以外	25	16	6	0	0	0	0	47
【外用薬】管理・保管方法	3	8	1	0	0	0	0	12
期限管理	3	5	2	0	0	0	0	10
点眼処置	11	10	4	0	0	0	0	25
上位3項目以外	6	7	1	0	0	0	0	14
2 輸 血	0	0	0	0	0	0	0	0
3 治療・処置	8	10	2	0	0	0	0	20
4 医療機器等	0	0	0	1	0	0	0	1
5 ドレーンチューブ	0	1	0	0	0	0	0	1
6 検査に関すること	3	2	5	0	0	0	0	10
7 療養上の世話	62	52	112	79	3	0	0	308
転倒	29	21	50	21	2	0	0	123
転落	3	8	19	3	1	0	0	34
褥瘡	0	0	0	2	0	0	0	2
熱傷	0	1	0	7	0	0	0	8
表皮剥離	0	0	3	15	0	0	0	18
皮膚トラブル (褥瘡・熱傷・表皮剥離以外)	10	5	17	23	0	0	0	55
誤嚥	4	0	1	0	0	0	0	5
誤食・誤飲	0	1	4	0	0	0	0	5
転倒・転落以外の骨折	0	0	0	0	0	0	0	0
上記以外の内容	16	16	18	0	0	0	0	50
8 その他	84	72	16	0	0	0	0	172
設備・備品等	23	17	6	0	0	0	0	46
その他	33	19	5	0	0	0	0	57
情報・データ等	24	24	1	0	0	0	0	49
上位3項目以外	4	12	4	0	0	0	0	20
合 計	263	224	172	81	3	0	0	743

(2) 部署別報告件数

部署	発生件数
第1センター	162
第3西センター	213
やすらぎ病棟	154
1病棟	80
一般支援室	38
治療棟	30
栄養管理室	15
薬剤科	13
福祉課	7
医局	11
リハビリ科	3
その他	17
合 計	743

(3) 職種別報告件数

職種	発生件数
医 師	12
看護師(含准看護師)	566
看護助手	61
薬剤師	14
臨床検査技師	5
理学療法士・作業療法士等	5
栄養士・調理師等	14
診療放射線技師	8
その他	58
合 計	743

(4) 発生曜日別件数

	発生件数
平日	598
土・日曜日(休日)	145
合計	743

(5) 発生時間帯

	発生件数
日勤	537
準夜	109
深夜	97
不明	0
合計	743

(6) 患者年齢別

	発生件数
50歳代	0
60歳代	0
70歳代	49
80歳代	229
90歳代	361
100歳以上	18
複数(1事例で2名以上)	71
不明(医療機器等で患者存在せず・職員)	15
合計	743

7. 看護学校関係

(1) 学生数 () 男子再掲

学 年	学 生 数	
	学生定員	現員数 (男子再掲)
1年生 (第57回生)	20	10 (2)
2年生 (第56回生)	20	10 (1)

(2) 応募・入学・卒業状況

回 生	入学年度	応募者	受験者	入学者	入学男子	退学者	卒業者数	倍率
56	R5	学校6 一般31	学校5 一般30	10	1	0	10	学校1.0 一般6.0
57	R6	学校5 一般6	学校5 一般6	10	2	1		学校1.0 一般1.2

(3) 一般学歴

年 度	入学者学歴						准看護学校	
	大学	短大	高校	衛生看護科	中学	その他 (大検等)	当該年度	当該年度外
R5	3	0	3	0	0	4	10	0
R6	2	1	6	0	0	1	8	2

(4) 年齢別

年 度	回 生	18歳	19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35歳以上
R5	56			2	2	2	4
R6	57			1	1	1	7

(5) 出身都道府県別

年度	北海道	青森	宮城	秋田	山形	福島	群馬	茨城	栃木	埼玉	千葉	東京	神奈川	山梨	長野	富山	石川	静岡	愛知	兵庫	大阪	和歌山	岡山	広島	山口	高知	香川	愛媛	福岡	熊本	鹿児島	佐賀	長崎
R5									7		2																					1	
R6									5		4													1									

(6) 卒業生進路状況

卒業 年 度	卒業 者 数	就 職										未 定	進 学																				
		国立高度医療専門医療センター			ハンセン療養所		国立病院機構		委託 治療 施設	官 立 公 的 病 院	法 人 其 他 の 病 院		助 産 師 学 校	保 健 師 学 校	大 学																		
		研 究 セ ン タ ー	循 環 器 病 研 究 セ ン タ ー	精 神 神 経 医 療 研 究 セ ン タ ー	国 際 医 療 セ ン タ ー	国 立 病 院	成 育 医 療 研 究 セ ン タ ー	自 施 設								他 施 設	実 習 施 設	実 習 外															
R5	14		2	1		1		3	1			5	1																				
R6	10							1		3	4												2										

(7) 国家試験合格状況

年 度	回 生	卒業者数	受験者数	合格者数	合格率	既卒者合格率
R5	55	14	14	14	100	
R6	56	10	10	10	100	

国立療養所多磨全生園年報編集委員会委員

委員長	岡 慎一	(副園長)
委員	後藤 義孝	(内科医長)
委員	加藤 知子	(内科医師)
委員	伊藤 博	(薬剤科長)
委員	高橋八重子	(副看護部長)
委員	加藤 浩二	(庶務課長)
委員	渡邊 隆治	(福祉課長)
委員	片居木伸幸	(人事課長)
委員	信澤 武	(会計第二課長)
委員	佐藤 陽子	(教育主事)
委員	田澤 理恵	(看護師長)
委員	間瀬 茂樹	(栄養管理室長)
委員	坂本 豊司	(庶務課長補佐)

発行年月	令和7年9月
発行者	国立療養所多磨全生園 〒189-8550 東京都東村山市青葉町4-1-1 電話042-395-1101
発行責任者	鶴飼 克明
編集者	国立療養所多磨全生園年報編集委員会
印刷・製本	社会福祉法人 東京コロニー コロニー東村山印刷所
